(様式第10)

令和　3年　10月　4日

厚生労働大臣　　殿

開設者名　学校法人金沢医科大学
理事長　髙島　茂樹

金沢医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和2年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

住　　所	〒920-0293　石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地
氏　　名	学校法人　金沢医科大学

(注)　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名　　称

金沢医科大学病院

3　所在の場所

〒920-0293 石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地 電話(076)286－3511

4　診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注)　上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科		有	・　無
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
⑤神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		11リウマチ科
診療実績 内視鏡内科、腫瘍内科			

(注)　1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

東海…
接　-3.10.-5
(00)　第10

(2)外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科　2消化器外科　3乳腺外科　4心臓外科 5血管外科　⑥心臓血管外科　7内分泌外科　⑧小児外科	
診療実績 形成外科	

(注) 1　「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2　「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科　②小児科　③整形外科　④脳神経外科　⑤皮膚科　⑥泌尿器科 7産婦人科　⑧産科　⑨婦人科　⑩眼科　⑪耳鼻咽喉科　⑫放射線科 13放射線診断科　14放射線治療科　⑮麻酔科　⑯救急科

(注)　標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4)歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 ①小児歯科　②矯正歯科　3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1　「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2　「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科　2　病理診断科

(注)　標榜している診療科名について記入すること。

5　病床数

精　神	感染症	結　核	療　養	一　般	合　計
36　床	床	床	床	781　床	817　床

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職　　種	常　勤	非常勤	合　計	職　　種	員　数	職　　種		員　数
医　　師	299 人	115 人	350.4 人	看護補助者	175 人	診療エックス線技師		0 人
歯科医師	8 人	5 人	9.9 人	理学療法士	33 人	臨床検査	臨床検査技師	68 人
薬　剤　師	59 人	1 人	59.4 人	作業療法士	17 人		衛生検査技師	0 人
保　健　師	2 人	1 人	2.4 人	視能訓練士	13 人		そ　の　他	0 人
助　産　師	34 人	2 人	35.1 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師		0 人
看　護　師	790 人	31 人	813.1 人	臨床工学士	15 人	医療社会事業従事者		8 人
准看護師	0 人	0 人	0 人	栄　養　士	18 人	その他の技術員		28 人
歯科衛生士	8 人	0 人	0 人	歯科技工士	3 人	事　務　職　員		106 人
管理栄養士	17 人	0 人	17 人	診療放射線技師	42 人	その他の職員		102 人

(注) 1　報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人　数	専門医名	人　数
総合内科専門医	25 人	眼科専門医	7 人
外科専門医	28 人	耳鼻咽喉科専門医	12 人
精神科専門医	6 人	放射線科専門医	7 人
小児科専門医	7 人	脳神経外科専門医	6 人
皮膚科専門医	3 人	整形外科専門医	16 人
泌尿器科専門医	7 人	麻酔科専門医	7 人
産婦人科専門医	6 人	救急科専門医	8 人
		合　計	145 人

(注) 1　報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（　伊藤　透　　）　任命年月日　令和　2　年　4　月　1　日

病院長として、医療安全管理責任者を統括する他、医療安全管理委員会委員長、医療問題調査委員会委員長を兼任し、医療事故の防止及び発生時における患者、医療従事者の安全確保を行っている

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
１日当たり平均入院患者数	518.80 人	5.30 人	513.50 人
１日当たり平均外来患者数	900.20 人	38.00 人	862.20 人
１日当たり平均調剤数	1003.90 剤		
必要医師数	107.3 人		
必要歯科医師数	3.0 人		
必要薬剤師数	18 人		
必要（准）看護師数	291 人		

(注)1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	987.8 m²	鉄骨コンクリート	病床数	29 床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	［固定式の場合］　床面積　295.5　m²　病床数　41　床 ［移動式の場合］　台　数　8　台					
医薬品情報管理室	［専用室の場合］　床　積　61.3　m² ［共用室の場合］　共用する室名　なし					
化学検査室	180 m²	鉄骨コンクリート	（主な設備）臨床化学自動分析装置			
細菌検査室	132 m²	鉄骨コンクリート	（主な設備）微生物感受性分析装置			
病理検査室	251 m²	鉄骨コンクリート	（主な設備） 全自動中性緩衝ホルマリン固定液作製装置、迅速自動固定包埋装置、密閉式自動固定包埋装置、凍結ミクロトーム、安全キャビネット、自動染色装置、自動免疫染色装置、顕微鏡			
病理解剖室	239 m²	鉄骨コンクリート	（主な設備） 感染症防止対策用解剖台、臓器撮影装置、体重計付ストレッチャー			
研究室	7,906 m²	鉄骨コンクリート	（主な設備）			
講義室	900m²	鉄骨造	室数　3　室		収容定員　630　人	
図書室	1,858.4m²	鉄筋コンクリート	室数　10 室		蔵書数　191,000　冊程度	

(注) 1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹　介　率	67.4 ％	逆　紹　介　率	67.2 ％
算出根拠	A：紹　介　患　者　の　数	9,472 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,194 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	751 人	
	D：初　診　の　患　者　の　数	15,158 人	

(注) 1　「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2　「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
秋野　裕信	福井大学医学部附属病院医療安全管理部　部長	○	医療安全業務従事者	有・無	1
鵜澤　剛	金沢大学大学院法務研究科准教授		法律学業務従事者	有・無	1
市川　政枝	元金沢星稜大学人間科学部非常勤講師		医療を受ける者	有・無	2
				有・無	
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1．医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2．医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3．その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 病院ホームページ上で公表している	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1　承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先　進　医　療　の　種　類	取扱患者数
MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	66人
LDLアフェレシス療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
早期胃癌に対するセンチネルリンパ節を指標としたリンパ節転移診断と個別化手術の有用性に関する臨床試験	13 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腎生検組織モノクローナル抗体染色	取扱患者数	43人
当該医療技術の概要（腎臓内科） 従来、腎生検組織の検査は、光顕、電顕に加えて蛍光抗体による免疫グロブリン補体の染色のみが保険適用されてきたが、糸球体構成成分及び病態関連分子に対するモノクローナル抗体(C4d, C3d, HLA-DR, CoL4α5/α2, HLA-G1, CD45, CoL1)の検索によって、より高度の診断およびこれに基づいた治療が可能である.			
医療技術名	自己免疫性および悪性腫瘍関連膜性腎症の診断と治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要（腎臓内科） 膜性腎症の診断において, 内因性抗原として膜型ホスホリパーゼ A2 受容体 (M-type phospholipase A2 receptor, PLA2R)および悪性腫瘍関連も指摘されているトロンボスポンディンタイプ1ドメインコンテイニング7A(Thrombospondin type-1 domain-containing 7A, THSD7A)および免疫グロブリンGサブクラスを組み合わせたより高度の質的診断およびこれに基づいた免疫抑制療法が可能である.			
医療技術名	選択性血漿交換療法の自己免疫性疾患に対する治療応用	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要（腎臓内科） 従来の血漿交換と比較して, より免疫グロブリンGを選択的に除去するとともにフィブリノーゲン等の高分子蛋白を保持する新たな選択的血漿交換療法を自己抗体と関連する各種免疫疾患（膠原病, 血液疾患, 神経疾患, 腎疾患）に適応するとともに免疫抑制療法あるいは大量γグロブリン療法と組み合わせることでより有効かつ安全な治療が可能である。			
医療技術名	外科手術における蛍光体腔鏡検査	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要（一般・消化器外科） ICG 蛍光を用いて, 動脈・静脈の同定, 胆管・尿管・リンパ管・胸管の同定, センチネルリンパ節の同定, 癌病変位置の特定, 胆汁漏・リンパ漏の確認などに, 蛍光体腔鏡を使用する.			
医療技術名	ロボット支援下直腸切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要（一般・消化器外科） ロボット支援下に直腸癌に対する低位前方切除術を実施する.			
医療技術名	低侵襲寛骨臼回転骨切り術	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要（整形外科） 寛骨臼形成不全症は日本人に多い疾患であり、これまで約30cmの皮膚切開で手術法が行われてきた。これを7cmの切開で筋切離を少なくし、回復も従来の2/3の期間で行える手術を行っている。			
医療技術名	股関節鏡下関節唇形成術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要（整形外科） 術後早期回復の観点から股関節唇損傷に対する鏡視下関節唇形成術は有用である。本術式では股関節周囲筋をほとんど損傷することなく股関節唇を修復することができる新しい治療方法である。			
医療技術名	O-armナビゲーションシステムを用いた整形外科手術	取扱患者数	72人
当該医療技術の概要（整形外科） Implantを使用した脊椎や外傷の手術は、術者の経験や技量に依存するところが多いが、O-armナビゲーションシステムを用いることにより、経験の浅い医師でもインプラントの正確な設置や骨折の立体的な整復を可能とし、手術時間の短縮や手術の低侵襲化を図ることが出来る。			
医療技術名	小腸機能不全に対する腸管リハビリテーション	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要（小児外科） 高度の短小腸症候群で肝障害・肝不全を伴った症例に対して肝移植を行い、術後小腸移植に向けてチーム医療による腸管リハビリテーションを行い全身管理を行い小腸移植につなげた			

医療技術名	腹腔鏡下ヒルシュスプルング病根治術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要（小児外科） ヒルシュスプルング病に対して新生児期の早期に手術を行うことができるようになった			
医療技術名	気膀胱下尿管移行術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要（小児外科） 膀胱切開を行わず尿管移行術を小児に行う術式を北陸で唯一施行できる施設としてこれを継続して行っている			
医療技術名	希少遺伝性疾患の遺伝カウンセリングと遺伝子診断	取扱患者数	59人
当該医療技術の概要（ゲノム医療センター） 指定難病や小児慢性特定疾患の申請に必要な遺伝子検査、その他の責任遺伝子が判明しているメンデル遺伝性疾患の遺伝子検査のうち、現状で”検査会社が受注していないもの”を対象に、遺伝カウンセリングを行った上で、本人や家族の希望に沿う形で遺伝子検査を実施。検査結果は再診時に遺伝カウンセリングと並行して説明。紹介医と連携し、遺伝学的管理指針をレポートにして提供。希少遺伝性疾患患者の医療に役立てている。			
医療技術名	家族性腫瘍症候群の遺伝カウンセリングと遺伝子診断	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要（ゲノム医療センター） 遺伝性乳癌卵巣癌、リンチ症候群、甲状腺髄様癌は頻度の高い家族性腫瘍症候群である。近年、分子標的薬のコンパニオン診断としてBRCA変異やMSI-Hが検出される頻度が増えてきており、患者本人に対するカウンセリング、患者家族に対するカウンセリングと遺伝子検査が急務となっている。しかしリンチ症候群のMMR遺伝子検査には保険適応はなく、BRCA遺伝子検査は非癌患者には保険適応がない。金沢医科大学病院ゲノム医療センターでは院内に遺伝子検査室を設け、低額の自費診療として必要な患者に検査を供給している。			
医療技術名	がん遺伝子パネル検査の二次的所見に対する遺伝医療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要（ゲノム医療センター） 悪性腫瘍に生じた遺伝子の変化をパネル検査として網羅的に解析し、その結果を基にした最適な化学療法を選択する。しかしながら数百個の遺伝子を網羅的に解析するため、二次的所見として患者が家族性腫瘍症候群やその他の遺伝性疾患を有していることが発覚する場合がある。この際のカウンセリングや、確定診断のための遺伝子検査を提供している。			
医療技術名	歯科矯正治療と外科的な顎骨の骨切り手術を併用した外科的矯正	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要（歯科口腔科） 顎顔面頭蓋の成長・発育異常による上下の骨格の不調和に歯の位置の異常が加わることにより、重度の咬み合わせの異常と顔面の変形を呈する顎変形症に対して、歯科矯正治療と外科的な顎骨の骨切り手術を併用した外科的矯正手術を行っている。治療の対象は上顎前突症、下顎前突症、上下顎前突症、上顎後退症、下顎後退症、開咬症、顔面非対称となっている。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

（注）1　当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2　医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　　患　　名	患者数		疾　　患　　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	24
2	筋萎縮性側索硬化症	10	57	特発性拡張型心筋症	31
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	9
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	0	60	再生不良性貧血	13
6	パーキンソン病	50	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	2	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	26
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	39	66	IgA 腎症	16
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	17
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	47	68	黄色靭帯骨化症	9
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	12	69	後縦靭帯骨化症	59
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	44
17	多系統萎縮症	13	72	下垂体性ADH分泌異常症	4
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	22	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症	22
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	5
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	12	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	31
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	66
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	4	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	25
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	11
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	7
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	15	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	0	90	網膜色素変性症	11
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬（汎発型）	3	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	15
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	9	95	自己免疫性肝炎	7
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	50
42	結節性多発動脈炎	5	97	潰瘍性大腸炎	96
43	顕微鏡的多発血管炎	18	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	2	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	11	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	12	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	8	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	78	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	34	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	29	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	12	107	全身型若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	48	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	8	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　　患　　名	患者数		疾　　患　　名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	7
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜症	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ＡＴＲ－Ｘ症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	１p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	４p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	５p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	ＰＣＤＨ19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱Ｘ症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　　患　　名	患者数		疾　　患　　名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	1
215	ファロー四徴症	1	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高ＩｇＤ症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	9	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	42	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	11
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
231	α1－アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	1
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンＤ抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンＤ依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸型）	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	1
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	7
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	ＩｇＧ４関連疾患	22
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース－１－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	19

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　　患　　名	患者数		疾　　患　　名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	323	芳香族L－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	326	大理石骨病	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／ＬＭＸ１Ｂ関連腎症	0	329	無虹彩症	1
316	カルニチン回路異常症	0	330	先天性気管狭窄症	0
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	2
318	シトリン欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアプテリン還元酵素（ＳＲ）欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0			

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・がん拠点病院加算
・歯科外来診療環境体制加算	・栄養サポートチーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・医療安全対策加算1
・特定機能病院入院基本料（一般7対1）	・感染防止対策加算1
・特定機能病院入院基本料（精神13対1）	・感染防止対策加算1（地域連携加算）
・臨床研修病院入院診療加算	・感染防止対策加算1（抗菌薬適正使用支援加算）
・救急医療管理加算	・患者サポート体制充実加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・診療録管理体制加算1	・ハイリスク妊娠管理加算
・医師事務作業補助体制加算1（30対1）	・ハイリスク分娩管理加算
・急性期看護補助体制加算（25対1）5割以上	・病棟薬剤業務実施加算1
・夜間100対1急性期看護補助体制加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・夜間看護体制加算	・データ提出加算2
・看護職員夜間配置加算1（12対1）	・データ提出加算2（データ提出評価加算）
・乳幼児加算 ・幼児加算	・入退院支援加算1
・難病等特別入院診療加算	・入退院支援加算（入院時支援加算）
・超重症児（者）入院診療加算 ・準超重症児（者）入院診療加算	・入退院支援加算（総合機能評価加算）
・看護補助加算2	・認知症ケア加算1(1日につき)
・療養環境加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算1	・精神科急性期医師配置加算2のイ（1日につき）
・無菌治療室管理加算2	・地域医療体制確保加算
・緩和ケア診療加算＊1日につき	・特定集中治療室管理料4
・精神病棟入院時医学管理加算	・早期栄養介入管理加算
・精神科身体合併症管理加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児特定集中治療室管理料1

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5　届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施　設　基　準　の　種　類	施　設　基　準　の　種　類
・総合周産期特定集中治療室管理料（母体・胎児集中治療室管理料）	
・新生児治療回復室入院医療管理料	
・小児入院医療管理料2	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療料）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・外来栄養食事指導料（注2）	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・遠隔モニタリング加算（ペースメーカー指導管理料）	・持続血糖測定器加算
・糖尿病合併症管理料	・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
・がん性疼痛緩和指導管理料	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料イ、ロ、ハ、ニ	・骨髄微小残存病変量測定
・外来緩和ケア管理料	・BRCA1／2遺伝子検査（血液を検体とするもの）
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・がんゲノムプロファイリング検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・先天性代謝異常症検査
・小児運動器疾患指導管理料	・抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
・婦人科特定疾患治療管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・腎代替療法指導管理料	・検体検査管理加算（Ⅳ）
・院内トリアージ実施料	・国際標準検査管理加算
・救急搬送看護体制加算1	・遺伝カウンセリング加算
・外来放射線照射診療料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ニコチン依存症管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん治療連携計画策定料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・肝炎インターフェロン治療計画料	・胎児心エコー法
・薬剤管理指導料	・ヘッドアップティルト試験
・医療機器安全管理料1	・人工膵臓検査
・医療機器安全管理料2	・皮下連続式グルコース測定
・医療機器安全管理料（歯科）	・光トポグラフィー
・総合医療管理加算（歯科疾患管理料）	・神経学的検査
・歯科治療時医療管理料	・補聴器適合検査
・在宅総合医療管理加算（歯科疾患在宅療養管理料）	・コンタクトレンズ検査料
・在宅患者歯科治療時医療管理料	・小児食物アレルギー負荷検査

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・内服・点滴誘発試験	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
・センチネルリンパ節生検（片側）1，2	・医療保護入院等診療料
・CT透視下気管支鏡検査加算	・エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）
・有床義歯咀嚼機能検査、咀嚼能力検査及び咬合圧検査	・エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）
・精密触覚機能検査	・人工腎臓1
・画像診断管理加算2	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・CT撮影及びMRI撮影	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・冠動脈CT撮影加算	・人工膵臓療法
・心臓MRI撮影加算	・CAD／CAM冠
・乳房MRI撮影加算	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・皮膚移植術（死体）
・外来化学療法加算1	・組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
・連携充実加算	・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る。）））
・無菌製剤処理料	・後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）
・心大血管疾患リハビリテーション料（Ｉ）	・椎間板内酵素注入療法
・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ｉ）	・腫瘍脊椎骨全摘術
・運動器リハビリテーション料（Ｉ）	・頭蓋骨形成手術（骨移動を伴うものに限る。）
・呼吸器リハビリテーション料（Ｉ）	・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・摂食機能療法（摂食嚥下支援加算）	・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
・がん患者リハビリテーション料	・緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
・歯科口腔リハビリテーション料2	・人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・救急患者精神科継続支援料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型（拡大副鼻腔手術）
・認知療法・認知行動療法1医師による場合	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
・精神科作業療法	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）、内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
・乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。）	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））	・腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	・同種死体腎移植術
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・生体腎移植術
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）	・腹腔鏡下仙骨膣固定術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除、肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・腹腔鏡下膣式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	・胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
・経皮的中隔心筋焼灼術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に限る。）
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）	・輸血管理料Ⅰ
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・輸血適正使用加算
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	・歯周組織再生誘導手術
・補助人工心臓	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）	・麻酔管理料（Ⅰ）
・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術	・麻酔管理料（Ⅱ）
・体外衝撃波胆石破砕術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下肝切除術	・外来放射線治療加算
・生体部分肝移植術	・高エネルギー放射線治療

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療（IMRT）	
・画像誘導放射線治療加算 （IGRT）	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・保険医療機関間の連携による病理診断	
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	
・病理診断管理加算2	
・悪性腫瘍病理組織標本加算	
・口腔病理診断管理加算	
・クラウン・ブリッジ維持管理料	
・歯科矯正診断料	
・顎口腔機能診断料（顎変形症（顎離断等の手術を必要とするものに限る。）の手術前後における歯科矯正に係るもの）	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療褥瘡又は難治性皮膚潰瘍（美容等に係るものを除く。）	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1　特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2　「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う３年前の４月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理:前年度の症例検討会　33回　（、剖検CPC4回）
剖　検　の　状　況	剖検症例数　　28　例　　／　剖検率　12.4　%

（注）「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
アルツハイマーモデル動物･辺縁系神経細胞の電気およびCa蛍光活動インビボ同時解析	加藤　伸郎	生理学Ⅰ	2,000,000	補 委	(独)日本学術振興会
疾患および老化研究に必要不可欠なストレス可視化マウスの開発	岩脇　隆夫	生命科学研究領域	3,700,000	補 委	(独)日本学術振興会
胎生期樹状細胞の機能解析と同細胞による脳の炎症性発達異常機構の解明	小内　伸幸	免疫学	4,200,000	補 委	(独)日本学術振興会
53BP1の生体維持機構：DNA損傷修復からアポトーシス細胞への免疫寛容誘導まで	岩淵　邦芳	生化学Ⅰ	3,600,000	補 委	(独)日本学術振興会
医療的ケア児の参画とテクノロジーの融合による当事者参画型災害備えシステムの開発	中井　寿雄	看護学部	3,400,000	補 委	(独)日本学術振興会
骨格筋ホルモンによる自律神経調節機構の解析と生活習慣病改善への意義	谷田　守	生理学Ⅱ	4,700,000	補 委	(独)日本学術振興会
ダイオキシンによる小児自閉スペクトラム症と体内時計の変化に関する分子疫学的研究	西条　旨子	公衆衛生学	1,700,000	補 委	(独)日本学術振興会
新規画像評価法による嗅覚障害からアルツハイマー病早期診断法の開発	三輪　高喜	耳鼻咽喉科学	800,000	補 委	(独)日本学術振興会
習慣的運動による慢性痛予防機序の基礎的解明	大道　美香	解剖学Ⅱ	700,000	補 委	(独)日本学術振興会
腸内フローラと心機能および動脈硬化、さらに動脈硬化進行との関連	長澤　晋哉	公衆衛生学	500,000	補 委	(独)日本学術振興会
パーキンソン病における嗅覚障害の分子イメージング研究	志賀　英明	耳鼻咽喉科学	900,000	補 委	(独)日本学術振興会
独居等で療養生活を支える家族のいない中高年がん患者の心理社会的支援に関する研究	久村　和穂	腫瘍内科学	300,000	補 委	(独)日本学術振興会
脱ユビキチン化酵素USP10が制御するDNA損傷応答機構の解析	宇谷　公一	微生物学	1,200,000	補 委	(独)日本学術振興会
ユビキチンリガーゼUBR4の組織特異的生理機能と分子機構	田崎　隆史	生命科学研究領域	600,000	補 委	(独)日本学術振興会
JunB発現を誘導して血管を神経と並走させる神経-血管相互作用の実体の解明	吉冨　泰央	生化学Ⅱ	900,000	補 委	(独)日本学術振興会
肺扁平上皮癌･小細胞癌の革新的進展制御法の確立：細胞膜スフィンゴ脂質からの攻略	上田　善道	病理学Ⅱ	900,000	補 委	(独)日本学術振興会
ペア型レセプターを介した免疫制御機構の解明	齋藤　史路	免疫学	1,000,000	補 委	(独)日本学術振興会
ストレスによる攻撃性増強の神経基盤の解明	山本　亮	生理学Ⅰ	700,000	補 委	(独)日本学術振興会
膵がん細胞のexosomeを介した浸潤性伝播の解明とその抑制剤の開発	島崎　猛夫	先端医療研究領域	900,000	補 委	(独)日本学術振興会
日本人におけるスタチン不耐のメカニズム解明と個別化動脈硬化治療の探索	梶波　康二	循環器内科学	400,000	補 委	(独)日本学術振興会
アミオダロン間質性肺炎における肺胞Ⅱ型上皮細胞での肺サーファクタント代謝の解明	長内　和弘	生命科学研究領域	1,200,000	補 委	(独)日本学術振興会
二重鎖DNA障害による超急性期から慢性期におよぶ移植腎機能障害の解析	横山　仁	腎臓内科学	700,000	補 委	(独)日本学術振興会

計22件

脱ユビキチン化酵素USP10が司る造血幹細胞維持機構の解明	樋口　雅也	微生物学	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
職業性ストレスがおよぼす健康関連行動や健康状況への長期的影響	石崎　昌夫	衛生学	600,000	補委	(独)日本学術振興会
職域健康格差と職業要因によるヘルスリテラシーとソーシャルキャピタルの構築の関連	森河　裕子	看護学部	800,000	補委	(独)日本学術振興会
体位制限のあるがん患者の睡眠障害を改善するタクティールケアプログラムの開発	坂井　恵子	看護学部	400,000	補委	(独)日本学術振興会
統合失調症患者の過覚醒状態についてのセルフモニタリング技術の開発	深沢　裕子	看護学部	800,000	補委	(独)日本学術振興会
乳幼児の個別性やニーズに対応できる「災害に備えた保育施設備蓄システム」の開発	山崎　智里	看護学部	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
若年性認知症者就労支援スキル獲得のための職場内就労支援者向け学習プログラムの開発	池内　里美	看護学部	500,000	補委	(独)日本学術振興会
抗酸化タンパク質の糖化が引き起こす活性酸素の上昇は、NASH発症の原因となるか？	逆井　亜紀子	先端医療研究領域	900,000	補委	(独)日本学術振興会
毒性をもつ終末糖化産物が引き起こす心筋細胞障害およびそのメカニズムの解明	高田　尊信	先端医療研究領域	900,000	補委	(独)日本学術振興会
転写は相同組換え経路のスイッチになりえるか	逆井　良	生化学Ⅰ	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
新規ホールマウント骨染色法の多重染色解析への展開	坂田　ひろみ	解剖学Ⅰ	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
Sortilinの新規リガンド分泌機構の分子基盤とその好酸球における役割	和田　俊樹	免疫学	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
低酸素シグナルによる抑制性神経の発生制御機構の解明	酒井　大輔	一般教育機構	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
培養HL-1心筋細胞とその数理モデルを用いた心筋システム制御理論の構築と実証	倉田　康孝	生理学Ⅱ	800,000	補委	(独)日本学術振興会
がん性胸腹膜炎の病態解明を基盤としたネオ抗原特異的がん免疫療法の開発	小屋　照継	再生医療学	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
紫外線暴露により水晶体で発現誘導されるOtx2の白内障発症における役割の解明	米倉　秀人	生化学Ⅱ	700,000	補委	(独)日本学術振興会
コンピュータ急性骨髄性白血病モデルによる再発動態解析と標的治療開発の基盤創成	犀川　太	小児科学	800,000	補委	(独)日本学術振興会
消化管上皮の領域特異的な発生と分化を制御する分子基盤の解明	森　健太郎	神経内科学	500,000	補委	(独)日本学術振興会
疾患特異的iPS細胞を用いた急性腎障害に対する腎修復機序の解明	古市　賢吾	腎臓内科学	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
非侵襲的サーモグラフィを用いたアナフィラキシーショック二相性反応の発生機序解明	芝本　利重	生理学Ⅱ	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
先天性に骨･軟骨形成異常を示すラットの病因, 病態解析	島田　ひろき	看護学部	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
内反寛骨臼関節唇の介在による大腿骨頭軟骨下骨折の発生機序および治療法の解明	福井　清数	整形外科学	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
新技術「選択的低圧式穿刺吸引細胞診（SLOP-FNAC）」の安全評価と改良研究	辻　裕之	頭頸部外科学	700,000	補委	(独)日本学術振興会
傷害声帯の修復過程における上皮間葉移行の役割	北村　守正	頭頸部外科学	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
耳鳴を生み出す聴覚神経回路網改変機構の解明	小野　宗範	生理学Ⅰ	900,000	補委	(独)日本学術振興会

計25件

脂肪組織由来幹細胞を用いた顎骨再生医療開発のための基礎的研究	松本　剛一	顎口腔外科学	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
がん患者における診断から治療開始までの期間の格差と規定因子	西野　善一	公衆衛生学	700,000	補委	(独)日本学術振興会
ADAMTS13とアンジオテンシンⅡにより誘発される死のメカニズムの網羅的解析	小林　正宗	法医学	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
入退院を繰り返す保存期慢性腎臓病患者の行動変容を促す療養援助モデルの開発	新井　里美	看護学部	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
療養場所別にみた、認知症の程度の進行に伴う概日リズムの変化	寺西　敬子	看護学部	400,000	補委	(独)日本学術振興会
身体不活動による病的疼痛の光遺伝学的解析と理学療法効果の科学的検証	大道　裕介	解剖学Ⅱ	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
体力･運動能力向上を配慮した小学校ボールゲーム指導プログラムの開発と有効性の検証	津田　龍佑	一般教育機構	200,000	補委	(独)日本学術振興会
アセトアルデヒド由来終末糖化産物からみたアルコール性肝障害患者の飲酒習慣の再考	福村　敦	肝胆膵内科学	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
人工perifascial areolar tissue開発に向けた基礎的研究	宮永　亨	形成外科学	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
抗酸化酵素PRDX4の生体内防御機構に基づく、肺癌の病態メカニズムの解明	山田　壮亮	臨床病理学	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
RBによるコレステロール代謝制御と前立腺がんの去勢抵抗性	友杉　充宏	解剖学Ⅰ	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
SMS阻害による癌微小環境免疫療法の分子機構解明	橋爪　智恵子	一般･消化器外科学	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
音情報と人工知能を用いた針筋電図放電の自動診断システムの開発	野寺　裕之	神経内科学	2,000,000	補委	(独)日本学術振興会
MuleによるCHK1を介した心筋ストレス応答の制御機序の解明	竹田　健史	循環器内科学	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
急性心不全及び急性心筋梗塞後の予後予測因子としての血漿遊離DNAの臨床応用	河合　康幸	循環器内科学	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
GSK3βを基軸とした食道発癌機構の解明と新規治療戦略の開発	宮下　知治	一般･消化器外科学	900,000	補委	(独)日本学術振興会
背景抑制広範囲拡散強調画像による肺癌の治療効果判定、およびその分子機構への応用	薄田　勝男	呼吸器外科学	1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
疼痛治療新規ターゲットとしての縫線核領域ドパミン作動系の機能解析	堀　佳江	生理学Ⅰ	1,700,000	補委	(独)日本学術振興会
先端巨大症における成長ホルモン奇異性上昇の生物学的意義；反応振幅の度数分布から	中川　淳	糖尿病･内分泌内科学	2,100,000	補委	(独)日本学術振興会
関節炎モデルを用いた間葉系幹細胞の疼痛抑制と軟骨保護機能に関わる分子機構の解明	市堰　徹	整形外科学	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
尿酸代謝と生活習慣病としてのカルシウム結石の分子機構の解明	宮澤　克人	泌尿器科学	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
子宮内膜オルガノイドを用いた内膜癌発がん阻止における細胞競合の役割の検討	髙倉　正博	産科婦人科学	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
相互転座保因者の遺伝カウンセリングに有用なアプリケーションの開発とその運用	尾崎　守	先端医療研究領域	700,000	補委	(独)日本学術振興会
眼表面の乾燥検出を調節する鍵物質アセチルコリンの役割―ドライアイとの関連性―	益岡　尚由	薬理学	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
虹彩iPS細胞を用いた電気生理機能を有する三次元網膜再生と薬物安全性評価法の開発	山本　直樹	眼科学	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会

計25件

非造影CT画像における乳癌術後リンパ浮腫の予測ツールの開発	浅野　きみ	看護学部	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
皮膚への刺激を低減する清潔ケア開発のための基礎的研究	石井　和美	看護学部	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
国際QOL尺度に基づくがん免疫療法患者のQuality of Life 評価	北村　佳子	看護学部	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
救急医療における延命治療の代理意思決定支援ツールの開発	清水　玲子	看護学部	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
チューブやカテーテル類による圧迫創傷予防のためのモデル作成と予防ケアの構築	木下　幸子	看護学部	2,400,000	補委	(独)日本学術振興会
糖尿病腎症患者の療養困難な認識パターンに対する療養継続を可能にする教育プログラム	松井　希代子	看護学部	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
サービス付き高齢者住宅における介護職向け膀胱留置カテーテル管理連携システムの開発	福田　守良	看護学部	200,000	補委	(独)日本学術振興会
高齢期の認知機能におけるチロシン脱リン酸化酵素SHP-1の機能解析	田中　貴士	解剖学Ⅱ	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
細胞内架橋分子Plectinの放射線誘発DNA損傷応答における新規機能の解明	松井　理	生化学Ⅰ	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
男性看護師向けジェンダー問題対応実践力獲得教育プログラム開発	杉森　千代子	看護学部	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
ダイオキシン高暴露成人男性における脳領域体積と領域間結合の変化についての研究	西条　旨子	公衆衛生学	600,000	補委	(独)日本学術振興会
リン酸化モチーフ上のがん特異的変異解析から覗く皮膚がん特異的リン酸化シグナル	吉崎　尚良	小児外科学	2,100,000	補委	(独)日本学術振興会
ヒルシュスプルング病に対する新たな移植療法の試み~多様分化混合細胞シートの開発~	桑原　強	小児外科学	2,100,000	補委	(独)日本学術振興会
ヒト脳全域を網羅的イメージングする超高速ブレインスキャナの開発	八田　稔久	解剖学Ⅰ	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
医療的ケア児の医療物資をiPadで画像認識しIoTで管理する災害備蓄アプリの開発	中井　寿雄	看護学部	1,900,000	補委	(独)日本学術振興会
MGAT阻害による糖尿病性腎臓病に対する新たな治療法の開発	古家　大祐	糖尿病･内分泌内科学	2,400,000	補委	(独)日本学術振興会
培養HL-1心房筋細胞の実験系を用いた後脱分極誘発不整脈の発生機序と抑制法の解明	九田　裕一	生理学Ⅱ	900,000	補委	(独)日本学術振興会
光トポグラフィー検査による学童期･青年期と成人期のうつ病の同種性･異種性の解明	木原　弘晶	精神神経科学	900,000	補委	(独)日本学術振興会
心筋血流解析のための薬物動態デジタルファントムの開発	奥田　光一	一般教育機構	900,000	補委	(独)日本学術振興会
可溶性ウロキナーゼ受容体を指標とするネフローゼ症候群の新たな診断･治療指針の確立	藤本　圭司	腎臓内科学	800,000	補委	(独)日本学術振興会
糖尿病腎症の発症と進展の抑制に関連するミオカインの同定とその機序の解明	門野　至	糖尿病･内分泌内科学	600,000	補委	(独)日本学術振興会
酵母発現系を用いたMycoplasma hominis病原因子の同定	河合　泰宏	金沢医科大学氷見市民病院	900,000	補委	(独)日本学術振興会
悪性腫瘍の発生･転移においてDPP-4が演じる分子機構の解明	髙垣　雄太	糖尿病･内分泌内科学	600,000	補委	(独)日本学術振興会
最終糖化産物が尿路結石形成に及ぼす分子機構の解明とバイオマーカーの探索	井上　慎也	泌尿器科学	700,000	補委	(独)日本学術振興会
組織学的評価に基づくパーソナライズな耳介矯正装具の開発	宮永　葵子	看護学部	200,000	補委	(独)日本学術振興会

計25件

微視的スケールの分析による発達性協調運動障害児の発達的変化	村上　祐介	一般教育機構	500,000	補委	(独)日本学術振興会
視聴覚統合による物体認識に重要な脳内機構：エコーロケーションをモデルとした研究	古山　貴文	生理学Ⅰ	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
結節性硬化症におけるTSC1/2の新規変異同定とその機能解析	硎　澄仁	先端医療研究領域	1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
スプライシング･NMD同時制御による抗がんメカニズムの探索	辰野　貴則	生命科学研究領域	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
膵癌における抗酸化酵素ペルオキシレドキシン(PRDX)4の役割	郭　シン	臨床病理学	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
低分子化合物を用いたダイレクトリプログラミングによる新たな樹状細胞培養系の樹立	松葉　慎太郎	免疫学	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
糖尿病性心筋症の発症機序に基づく新たな治療法の確立	平井　太郎	糖尿病･内分泌内科学	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
スフィンゴリン脂質およびMMPを介する肺癌の治療抵抗性のメカニズムの解明	本野　望	呼吸器外科学	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
間葉系幹細胞の経静脈投与によるステロイド誘発大腿骨壊死の予防で働く分子機構の解明	島崎　都	病理学Ⅱ	500,000	補委	(独)日本学術振興会
ミトコンドリア転写因子Aによるステロイド関連骨壊死の新しい予防法の開発	植田　修右	整形外科学	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
食塩感受性高血圧による尿路結石症促進の分子機構の解明	中澤　佑介	泌尿器科学	800,000	補委	(独)日本学術振興会
新規領域のPCRを用いた日本における発がん性ヒトパピローマウイルス感染の実態解明	坂本　人一	産科婦人科学	800,000	補委	(独)日本学術振興会
閉経老年マウスにおける嗅上皮障害後の再生過程の解明	山田　健太郎	耳鼻咽喉科学	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
におい刺激による嗅覚系ニューロン再生の検証、分子機構の解明と認知症治療への応用	石倉　友子	耳鼻咽喉科学	700,000	補委	(独)日本学術振興会
水晶体におけるデコリンの上皮間葉系移行抑制効果と水晶体再生への影響	柴田　伸亮	眼科学	800,000	補委	(独)日本学術振興会
ドライアイの自覚症状と延髄および頸髄におけるシナプス伝達異常の関連性	中野　克哉	薬理学	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
新生血管とAquaporin1発現の誘導による生体内での弾性軟骨再生法の開発	柳下　幹男	形成外科学	700,000	補委	(独)日本学術振興会
糖尿病患者のセルフケア行動を阻害する心理社会的要因の件用～運動療法に着目して～	佐々木 美保	一般教育機構	400,000	補委	(独)日本学術振興会
ネオ抗原由来mRNAとエクソソームによる個別化医療に資する樹状細胞ワクチンの作製	坂本　卓弥	再生医療学	2,200,000	補委	(独)日本学術振興会
ミクログリア特異的遺伝子改変マウスを用いたアルツマイマー病における機能解析	小笠原　千絵	免疫学	1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
母体感染による神経発達障害の脳形成異常のメカニズムの解明と新規治療戦略の提案	塚田　剛史	解剖学Ⅰ	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
スフィンゴ脂質が非アルコール性脂肪肝疾患関連肝発癌に及ぼす影響に関する研究	中村　直彦	一般･消化器外科学	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
DAAs治療後HCV感染腎移植レシピエントの腎予後及び生命予後の検討	沖野　一晃	腎臓内科学	300,000	補委	(独)日本学術振興会
抗酸化酵素PRDX4遺伝子改変マウスモデルを用いた、創傷治癒改善メカニズムの解析	山口　礼門	皮膚科	1,700,000	補委	(独)日本学術振興会
スフィンゴ脂質代謝制御による新規大腸癌治療法の開発	藤井　頼孝	一般･消化器外科学	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会

計25件

婦人科がんにおけるテロメラーゼ、サバイビンを標的とした血中循環腫瘍細胞の検出	髙田　笑	産科婦人科	1,800,000	補委	(独)日本学術振興会
嗅覚系再生における末梢-中枢連関　嗅神経から海馬まで	中村　有加里	耳鼻咽喉科学	700,000	補委	(独)日本学術振興会
高転移性ルイス肺癌における血管内皮細胞を模倣した腫瘍擬似血管形成メカニズムの解明	高辻　英仁	生化学Ⅱ	700,000	補委	(独)日本学術振興会
疼痛治療新規ターゲットとしての縫線核ドパミンニューロン群	堀　佳江	生理学Ⅰ	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
眼表面の知覚制御機構の解明を目指したin vitro実験系の開発	何　強	薬理学	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
2型糖尿病患者の空腹感の捉え方の解明ー類型化と心理社会的要因との関連ー	長棟　瑞代	看護学部	600,000	補委	(独)日本学術振興会
産後尿失禁の慢性化予防を目的とした股関節内転筋運動プログラム開発と効果検証	亀谷　茉里子	看護学部	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
アポトーシス細胞表層に露出した53BP1による自己免疫抑制機構の解明	砂谷　優実	生化学Ⅰ	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
新型コロナウイルス感染症による嗅覚、味覚障害の機序と疫学、予後の解明に資する研究	三輪　高喜	耳鼻咽喉科学	15,004,000	補委	厚生労働省
キャッスルマン病、TAFRO症候群、類縁疾患の診療ガイドラインの策定や更なる改良に向けた国際的な総意形成を踏まえた調査研究	正木　康史	血液免疫内科学	200,000	補委	厚生労働省
キャッスルマン病、TAFRO症候群、類縁疾患の診療ガイドラインの策定や更なる改良に向けた国際的な総意形成を踏まえた調査研究	山田　壮亮	臨床病理学	200,000	補委	厚生労働省
キャッスルマン病、TAFRO症候群、類縁疾患の診療ガイドラインの策定や更なる改良に向けた国際的な総意形成を踏まえた調査研究	石垣　靖人	生命医療研究領域	200,000	補委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	正木　康史	血液免疫内科学	180,000	補委	厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	正木　康史	血液免疫内科学	500,000	補委	厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の医療水準及び患者QOL向上に関する大規模多施設研究	兼氏　歩	整形外科学	100,000	補委	厚生労働省
難治性腎障害に関する調査研究	古市　賢吾	腎臓内科学	300,000	補委	厚生労働省
最近の薬剤耐性機構解析に基づいた多職種連携による効率的･効果的な院内耐性菌制御の確立のための研究	飯沼　由嗣	臨床感染症学	1,000,000	補委	厚生労働省
神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準･重症度分類･ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	松井　真	神経内科学	400,000	補委	厚生労働省
我が国の関節リウマチ診療の標準化に関する臨床疫学研究	松下　功	リハビリテーション医学	223,000	補委	厚生労働省
生涯にわたる循環器疾患の個人リスクおよび集団リスクの評価ツールの開発及び臨床応用のための研究	櫻井　勝	衛生学	800,000	補委	厚生労働省
国際比較可能ながん登録データの精度管理および他の統計を併用したがん対策への効果的活用の研究	西野　善一	公衆衛生学	650,000	補委	厚生労働省
放射線業務従事者の健康影響に関する疫学研究	佐々木　洋	眼科学	25,833,252	補委	厚生労働省
眼の水晶体の放射線防護に資する機材開発推進および被ばく低減のための多角的研究	佐々木　洋	眼科学	4,200,000	補委	厚生労働省
適時適切な医療･ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録･追跡を行う研究	森本　茂人	高齢医学	1,153,847	補委	(国研)日本医療研究開発機構
診療連携･国際連携をも視野にいれた、生活習慣病、CKDの診療の質向上に直結する多施設長期コホート研究	横山　仁	腎臓内科学	150,000	補委	(国研)日本医療研究開発機構

計25件

マージナルドナー腎移植の安全性に関する新規エビデンス創出研究	横山　仁	腎臓内科学	5,520,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
中性脂肪蓄積心筋血管症の診療に直結するエビデンス創出研究	梶波　康二	循環器内科学	1,100,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
抗Neurofascin155抗体陽性慢性炎症性脱髄性多発神経炎の診断基準・治療ガイドライン作成のためのエビデンスの創出	松井　真	神経内科学	5,538,462	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
日本の先天異常発生動向とその影響要因およびその解析方法に関する研究	森河　裕子	看護学部	2,330,770	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
医薬品等の動物試験代替法の開発及び国際標準化等に関する研究	山本　直樹	眼科学	1,500,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
筋萎縮性側索硬化症（ALS）に対する遺伝子治療法の開発	加藤　友久	先端医療研究領域	1,000,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
軽度アルツハイマー型認知症を対象とする八味地黄丸の認知機能に対する有効性と安全性を確認する探索的オープン標準治療対照無作為化割付多施設共同試験	入谷　敦	高齢医学	5,547,450	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
トシリズマブ効果不十分の特発性多中心性キャッスルマン病に対するシロリムスの医師主導治験	川端　浩	血液免疫内科学	1,000,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
早期胃癌に対するセンチネルリンパ節生検を用いた個別化、縮小手術の安全性と有効性を検証することを目的とした検証的多施設共同第3相試験	木南　伸一	一般・消化器外科学	1,100,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
カドミウム汚染地域住民の追跡研究 －神通川カドミウム汚染流域の土壌汚染改善後のカドミウム体内蓄積量と健康影響の変化－	中川　秀昭	衛生学	2,260,870	補 委	株式会社オーエムシー（環境省）
多様な環境条件での電波ばく露による眼障害閾値に関する研究	佐々木　洋	眼科学	17,391,000	補 委	総務省
からだを透かして見てみよう　―透明人間できるかな？－2020	八田　稔久	解剖学Ⅰ	500,000	補 委	(独)日本学術振興会
癌間質特性HER1/4の本質的制御によるびまん性胃癌の革新的標的治療薬の開発	安本　和生	腫瘍内科学	5,792,777	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
第19回日韓糖尿病性腎症セミナー	古家　大祐	糖尿病・内分泌内科学	1,140,000	補 委	(独)日本学術振興会
機能性細胞を用いた生体適合性担体の探索および製造システムに関する研究	下平　滋隆	再生医療学	8,084,616	補 委	(国研)科学技術振興機構
肝臓で自律神経が糖を感受する仕組みの解明と糖代謝調節への意義	谷田　守	生理学Ⅱ	\1,000,000	補 委	(公財) 糖業協会
アセチルコリントランスポーターおよび細胞内アセチルコリン受容体を介するアルツハイマー病治療の戦略	村松　郁延	薬理学	\2,500,000	補 委	(公財) 喫煙科学研究財団
心肺蘇生を望まない介護老人福祉施設入所者が心肺停止時に救急搬送に至る要因	能任　純一	救急医療センター	\798,800	補 委	(一財) 救急振興財団
下肢閉塞性動脈硬化症予後予測因子としての酸化LOL:血流シグナルおよびマイクロRNAとの関係	高村　敬明	循環器内科学	\1,000,000	補 委	(公財) 福田記念医療技術振興財団
抗酸化酵素ペルオキシレドキシン（PRDX）4は、肺がんに対する生体内防御機構に寄与する	山田　壮亮	臨床病理学	\500,000	補 委	北國がん研究振興財団
北陸発再生医療等製品：ネオ抗原を標的としたIFN-樹状細胞を用いた個別化がんワクチン開発	下平　滋隆	再生医療学	\500,000	補 委	北國がん研究振興財団
腹部間葉系悪性腫瘍におけるZFP57 の機能解析	高村　博之	一般・消化器外科学	\500,000	補 委	北國がん研究振興財団
アルツハイマー病におけるミクログリアの本質的な役割の解明と新規治療方法の創出	小笠原　千絵	免疫学	\2,000,000	補 委	(公財)武田科学振興財団
縫線核領域ドパミン作動系による情動行動および情動学習調節機構の解明	山本　亮	生理学Ⅰ	\2,000,000	補 委	(公財)武田科学振興財団
Perifascial areolar tissue graft(PAT)の創傷治癒に与える効果の研究	宮永　亨	形成外科学	\1,000,000	補 委	(一財) SBC医学振興財団

計25件

シミュレーション教育による小児医療従事者の育成	秋田　千里	小児科学	\400,000	補	(公財) 森永奉仕会
急性骨髄性白血病モデルによる再発解析と白血病幹細胞を標的とする治療開発	犀川　太	小児科学	\300,000	補	(一社) 日本血液学会
小胞体ストレス耐性モデルマウスの開発と解析から迫る炎症性腸疾患の予防戦略	黒田　絵莉子	生命科学研究領域	\1,000,000	補	(一財)横山臨床薬理研究助成基金
TAFRO症候群における診断･治療バイオマーカーおよび治療標的の探索	正木　康史	血液免疫内科学	\300,000	補	(一社) 日本血液学会
抗酸化ストレス因子PRDX4を中心とした、胃癌進展抑制メカニズムの解明	伊藤　透	消化器内視鏡学	\2,500,000	補	(公財) 澁谷学術文化スポーツ振興財団
生活習慣病としてのカルシウム結石と尿酸代謝の分子機構の解明	宮澤　克人	泌尿器科学	\3,000,000	補	(公財) 澁谷学術文化スポーツ振興財団
消化管交感神経求心路の栄養センサーとしての新たな機能発掘と生理学的役割の解析	谷田　守	生理学Ⅱ	\2,000,000	補	(公財)鈴木謙三記念医科学応用研究財団
心臓突然死の発生危険度予測に資する定量評価法の開発	津元　国親	生理学Ⅱ	\500,000	補	(公財)橘勝会すこやか健康応援団
大腸ガンの発症と進行におけるIRE1およびXBP1の機能解析	岩脇　隆夫	生命科学研究領域	\500,000	補	(公財)橘勝会すこやか健康応援団
小胞体ストレス応答機構が支える造血幹細胞の正常な自己増殖能と生存能	岩脇　隆夫	生命科学研究領域	\1,000,000	補	(公財)先進医薬研究振興財団
細胞ストレス応答の解析から迫る疲労メカニズム	岩脇　隆夫	生命科学研究領域	\5,000,000	補	(公財)上原記念生命科学財団
胎生期における樹状細胞の包括的解明－臓器移植治療や炎症性疾患の治療に向けて－	齋藤　史路	免疫学	\2,000,000	補	(公財) 内藤記念科学振興財団
細胞ストレス応答と炎症反応の解析から迫る「疲労メカニズム」の分子細胞生物学的な解明	岩脇　隆夫	生命科学研究領域	\1,000,000	補	(公財)ノバルティス科学振興財団
金沢医科大学病院身体科病棟におけるせん妄発症の予防因子の検討	新田　佑輔	精神神経科学	\500,000	補	(公信)松原三郎記念精神医学育成基金

合計186件

(注)　1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入するこ

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名･出版年月等	論文種別	
1	Nakamura N, Kinami S, Tomita Y, et al.	一般･消化器外科	The neutrophil/lymphocyte ratio as a predictor of successful conversion surgery for stage IV gastric cancer: a retrospective study	BMC Cancer. 2020 Apr (オンライン)	Original Article	
2	Miyata T, Takamura H, Kin R, et al.	一般･消化器外科	Spleen Volume as a Predictive Biomarker for Thrombocytopenia and Liver Dysfunction After Oxaliplatin-based Chemotherapy	Anticancer Res. 2020 Jun;40(6):3361-3370.	Original Article	
3	Miyata T, Takamura H, Kin R, et al.	一般･消化器外科	Pancreatic neuroendocrine tumor featuring growth into the main pancreatic duct and tumor thrombus within the splenic vein: a case report	J Surg Case Rep. 2020 Jul 14;2020(7):rjaa155.	Case report	
4	Miyata T, Matsui D, Fujiwara Y, et al.	一般･消化器外科	Predictive factors for developing acute cholangitis and/or cholecystitis in patients undergoing delayed cholecystectomy: A retrospective study	Asian J Surg. 2021 Jan (オンライン)	Original Article	
5	Kinami S, Nakamura N, Zhiyong J, et al.	一般･消化器外科	Severity of postgastrectomy syndrome and quality of life after advanced gastric cancer radical gastrectomy	Mol Clin Oncol. 2020 Aug;13(2):133-140.	Original Article	
6	Nakamura N, Kinami S, Fujita J, et al.	一般･消化器外科	A Case of Advanced Gastroesophageal Junction Cancer with Bulky Lymph Node Metastases Treated with Nivolumab	Case Rep Oncol. 2020 Jun 23;13(2):702-707.	Case report	計6件

7	Kinami S, Ohnishi T, Nakamura N, et al.	一般･消化器外科	Efficacy of the fat-dissociation method for nodal harvesting in gastric cancer	World J Gastrointest Surg. 2020 Jun 27;12(6):277-286.	Original Article	
8	Kinami S, Aizawa M, Yamashita H, et al.	一般･消化器外科	The incidences of metachronous multiple gastric cancer after various types of gastrectomy: analysis of data from a nationwide Japanese survey	Gastric Cancer. 2021 Jan;24(1):22-30.	Original Article	
9	Takamura H, Gabata R, Obatake Y, et al.	一般･消化器外科	Clinical features and diagnostic imaging of cholangiolocellular carcinoma compared with other primary liver cancers: a surgical perspective	Technol Cancer Res Treat. 2020 Jan-Dec;19:1533033820948141.	Original Article	
10	Nakamura N, Kinami S, Fujita J, et al.	一般･消化器外科	Chronological Changes in Neutrophil/lymphocyte Ratio in Advanced Gastric Cancer Patients Treated with Nivolumab: a Report of Nine Cases	Asian Pac J Cancer Prev. 2020 Oct 1;21(10):2955-2960.	Original Article	
11	Seiko Miura	一般･消化器外科	The Effect of Cachexia on the Prognosis of Pancreatic Cancer Patients	Journal of Kanazawa Medical University. 2020 Dec;45(3):29-34	Original Article	
12	Ishida H, Shibata T, Shibata S, et al.	眼科	Lutein plus Water Chestnut (Trapa bispinosa Roxb.) Extract Inhibits the Development of Cataracts and Induces Antioxidant Gene Expression in Lens Epithelial Cells	Biomed Res Int. 2020 May 19;2020:9204620.	Original Article	
13	Shibata N, Ishida H, Kiyokawa E, et al.	眼科	Relative gene expression analysis of human pterygium tissues and UV radiation-evoked gene expression patterns in corneal and conjunctival cells	Exp Eye Res. 2020 Oct;199:108194.	Original Article	計7件

14	Mito T, Kobayashi T, Shiraishi A.	眼科	Central scotoma after indocyanine green assisted fovea-sparing internal limiting membrane peeling	Am J Ophthalmol Case Rep. 2020 Sep（オンライン）	Case report	
15	Ishida H, Shibata T, Nakamura Y, et al.	眼科	Identification of Differential Gene Expression Pattern in Lens Epithelial Cells Derived from Cataractous and Noncataractous Lenses of Shumiya Cataract Rat	Biomed Res Int. 2020 Nov 2;2020:7319590.	Original Article	
16	Yamamoto N, Takeda S, Hatsusaka N, et al.	眼科	Effect of a Lens Protein in Low-Temperature Culture of Novel Immortalized Human Lens Epithelial Cells (iHLEC-NY2)	Cells. 2020 Dec（オンライン）	Original Article	
17	Kubo Eri	眼科	Aging of the crystalline lens from the viewpoint of anti-glycation and anti-oxidation	Glycative Stress Research. 2020 Dec;7(4)283-286	Review	
18	Usuda D, Taki Y, Izumida T, et al.	感染症科	Disseminated Spinal Epidural Abscess in an Immunocompetent Individual: A Case Report and Review of the Literature	J Med Cases. 2020 Dec;11(12):417-425.	Case report	
19	Usuda Daisuke, Takagi Susumu, Takanaga Kohei, et al.	感染症科	Adrenal Insufficiency due to Total Primary Empty Sella Syndrome	Journal of Endocrinology and Metabolism 2020 Oct;10(5):144-153	Case report	
20	Kubota R, Hayashi N, Kinoshita K, et al.	肝胆膵内科	Inhibition of γ-glutamyltransferase ameliorates ischaemia-reoxygenation tissue damage in rats with hepatic steatosis	Br J Pharmacol. 2020 Nov;177(22):5195-5207.	Original Article	計7件

21	Ushimoto Tomoyuki	救急医療センター	Impact on Ambulance Call of Differences in Living Environment After a Major Disaster	Journal of Kanazawa Medical University. 2020 Dec;45(1):1-9	Original Article	
22	Fujimoto S, Kawabata H, Sakai T, et al.	血液･リウマチ膠原病科	Optimal treatments for TAFRO syndrome: a retrospective surveillance study in Japan	Int J Hematol. 2021 Jan;113(1):73-80	Original Article	
23	Ura H, Togi S, Niida Y	ゲノム医療センター	Dual Deep Sequencing Improves the Accuracy of Low-Frequency Somatic Mutation Detection in Cancer Gene Panel Testing	Int J Mol Sci. 2020 May（オンライン）	Original Article	
24	Sakurai M, Suwazono Y, Nishijo M, et al.	健康管理センター	Relationship between urinary β(2) -microglobulin concentration and mortality in a cadmium-polluted area in Japan: A 35-year follow-up study	J Appl Toxicol. 2021 Feb;41(2):224-232.	Original Article	
25	Higashikawa T, Ito T, Mizuno T, et al.	高齢医学科	Gender Differences in Cardiac Function Following Three-Month Administration of Tofogliflozin in Patients With Diabetes Mellitus	J Clin Med Res. 2020 Aug;12(8):530-538.	Original Article	
26	Higashikawa T, Shigemoto K, Goshima K, et al.	高齢医学科	Mortality and the Risk Factors in Elderly Female Patients With Femoral Neck and Trochanteric Fractures	J Clin Med Res. 2020 Oct;12(10):668-673.	Original Article	
27	Ishisaka T, Igarashi Y, Kodera K, et al.	高齢医学科	Relationship Between Blood Pressure Levels on Admission and the Onset of Acute Pneumonia in Elderly Patients With Cerebral Hemorrhage	J Clin Med Res. 2020 Nov;12(11):693-698.	Original Article	計7件

28	Hamada K, Itoh T, Kawaura K, et al.	高齢医学科	Relationship Between Gastroesophageal Reflux Disease and Endoscopic Finding "Iodine-Unstained Streak"	J Clin Med Res. 2020 Nov;12(11):699-704.	Original Article	
29	Morita Takuro, Higashikawa Toshihiro, Moriyama Manabu, et al.	高齢医学科	Functional Decline Status for the Development of Aspiration Pneumonia in Elderly Patients with Femoral Neck and Trochanteric Fractures	Open Access Journal of Biomedical Science. 2020 (オンライン)	Original Article	
30	Usuda K, Iwai S, Yamagata A, et al.	呼吸器外科	Relationships and Qualitative Evaluation Between Diffusion-Weighted Imaging and Pathologic Findings of Resected Lung Cancers	Cancers (Basel). 2020 May 8;12(5):1194.	Original Article	
31	Usuda K, Niida Y, Iwai S, et al.	呼吸器外科	Higher Tumor Mutation Burden and Higher PD-L1 Activity Predicts the Efficacy of Immune Checkpoint Inhibitor Treatment in a Patient With Four Lung Cancers. A Case Report	Front Oncol. 2020 Jun 2;10:689.	Case report	
32	Usuda K, Iwai S, Yamagata A, et al.	呼吸器外科	Unusual local and distant metastases after complete resection of roentgenographically occult squamous cell carcinoma	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Jan;69(1):133-136.	Case report	
33	Iwai S, Funasaki A, Sekimura A, et al.	呼吸器外科	Emergence of lung cancer with a low PD-L1 expression level after the administration of immune check point inhibitor for lung adenocarcinoma with a high PD-L1 expression level: A case report	Ann Med Surg (Lond). 2020 May 23;56:82-85.	Case report	
34	Sekimura A, Iwai S, Yamagata A, et al.	呼吸器外科	Virtual thoracoscopic imaging-assisted pleural marking of pulmonary nodules	J Thorac Dis. 2020 Aug;12(8):4148-4156.	Original Article	計7件

35	Uramoto H, Motono N	呼吸器外科	Indocyanine green fluorescence detects the blood flow of the bronchial anastomosis for bronchoplasty "case report"	Ann Med Surg (Lond). 2020 Sep 28;59:151-152.	Case report	
36	Motono N, Iwai S, Iijima Y, et al.	呼吸器外科	Operative invasiveness does not affect the prognosis of patients with non-small cell lung cancer	BMC Pulm Med. 2020 Oct (オンライン)	Original Article	
37	Iijima Y, Iwai S, Yamagata A, et al.	呼吸器外科	Anterior mediastinal ectopic pancreatic cyst incidentally identified by pericarditis: a case report	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Mar;69(3):597-600.	Case report	
38	Usuda K, Iwai S, Yamagata A, et al.	呼吸器外科	Clinical outcomes and survival following placement of self-expandable metallic stents for central airway stenosis and fistula	Thorac Cancer. 2021 Jan;12(1):48-56.	Original Article	
39	Motono N, Iwai S, Yoshihito I, et al.	呼吸器外科	Predictive factors related to pleural dissemination in non-small cell lung cancer	J Thorac Dis. 2020 Oct;12(10):5647-5656.	Original Article	
40	Usuda K, Iwai S, Yamagata A, et al.	呼吸器外科	Differentiation between suture recurrence and suture granuloma after pulmonary resection for lung cancer by diffusion-weighted magnetic resonance imaging or FDG-PET / CT	Transl Oncol. 2021 Feb;14(2):100992.	Original Article	
41	Usuda K, Iwai S, Yamagata A, et al.	呼吸器外科	Diffusion-weighted whole-body imaging with background suppression (DWIBS) is effective and economical for detection of metastasis or recurrence of lung cancer	Thorac Cancer. 2021 Mar;12(5):676-684.	Original Article	計7件

42	Motono N, Ueda Y, Shimasaki M, et al.	呼吸器外科	Prognostic Impact of Sphingosine Kinase 1 in Nonsmall Cell Lung Cancer	Clin Pathol. 2021 Feb（オンライン）	Original Article	
43	Motono N, Ishikawa M, Iwai S, et al.	呼吸器外科	Benign emptying of the post-pneumonectomy space: A case report	Int J Surg Case Rep. 2021 Feb 24;80:105699.	Case report	
44	Motono N, Iwai S, Yamagata A, et al.	呼吸器外科	Risk factors of chest wall invasion in non-small cell lung cancer	J Thorac Dis. 2021 Feb;13(2):824-830.	Original Article	
45	Motono, N	呼吸器外科	Synchronous Lung Cancer with Bone Metastasis and Rectal Cancer: A Case Report	Annals of Clinical and Medical Case Reports. 2020 (オンライン)	Case report	
46	Atsushi Sekimura, Shun Iwai, Aika Yamagata, et al.	呼吸器外科	Use of Three-dimensional Printing of a Vascular Model in the Preoperative Planning for the Surgery of a Lung Cancer Patient with Vascular Anomaly	Journal of Kanazawa Medical University. 2020 Dec;45(1):10-11	Case report	
47	Motono N, Shioya A, Yamada S	呼吸器外科	Pulmonary Typical Carcinoid on Right Middle Lobe Hypoplasia: A Case Report and Review of the Literature	Clin Image Case Rep J. 2020 Aug（オンライン）	Case report	
48	Osanai K, Mizuno S, Toga H, et al.	呼吸器内科	Trafficking of newly synthesized surfactant protein B to the lamellar body in alveolar type II cells	Cell Tissue Res. 2020 Sep;381(3):427-438.	Original Article	計7件

49	Takahara Y, Yamamura K, Matsuura S, et al.	呼吸器内科	A case of ROS1-rearranged lung adenocarcinoma with osteoblastic bone metastasis	Respir Med Case Rep. 2020 Jun 12;30:101124.	Case report	
50	Takahara Y, Ishige Y, Shionoya I, et al.	呼吸器内科	Second SVC stent treatment for tumour ingrowth	Respirol Case Rep. 2020 Jul 2;8(6):e00619.	Case report	
51	Takahara Y, Nishiki K, Nakase K, et al.	呼吸器内科	Ruptured pseudoaneurysm of the thoracic aorta mimicking lung cancer: A case report	Thorac Cancer. 2021 Mar;12(5):685-689.	Case report	
52	Nishiki K, Ishige Y, Kawasaki Y, et al.	呼吸器内科	Foreign body removed using curette and retrieval net after tracheostomy	Lung India. 2021 Mar-Apr;38(2):199-200.	Case report	
53	Shinomiya S, Nakase K, Fujii A, et al.	呼吸器内科	Tocilizumab and PMX-DHP have efficacy for severe COVID-19 pneumonia	SAGE Open Med Case Rep. 2021 Feb 1;9:2050313X21991063.	Case report	
54	Koya T, Date I, Kawaguchi H, et al.	再生医療センター	Dendritic Cells Pre-Pulsed with Wilms' Tumor 1 in Optimized Culture for Cancer Vaccination	Pharmaceutics. 2020 Mar 28;12(4):305.	Original Article	
55	Takakura M, Takata E, Sasagawa T	産科婦人科	A Novel Liquid Biopsy Strategy to Detect Small Amounts of Cancer Cells Using Cancer-Specific Replication Adenoviruses	J Clin Med. 2020 Dec 14;9(12):E4044.	Review	計7件

56	Takagi H, Yamada S, Sakamoto J, et al.	産科婦人科	Hemostatic effects of kyukikyogaito in dienogest treatment	Clinical and Experimental Obstetrics & Gynecology. 2020 Aug;47(4):560-564	Original Article	
57	Hiroaki Takagi, Tsukasa Yamanouchi, Yoshihiko Saeki, et al.	産科婦人科	Therapeutic Effect of Dienogest in Patients with Chocolate Cysts	Journal of Kanazawa Medical University. 2020 Dec;45(2):19-23	Original Article	
58	Yamada K, Shiga H, Noda T, et al.	耳鼻咽喉科	The Impact of Ovariectomy on Olfactory Neuron Regeneration in Mice	Chem Senses. 2020 Apr 17;45(3):203-209.	Original Article	
59	Shiga H, Wakabayashi H, Washiyama K, et al.	耳鼻咽喉科	Thallium-201 Imaging in Intact Olfactory Sensory Neurons with Reduced Pre-Synaptic Inhibition In Vivo	Mol Neurobiol. 2020 Dec;57(12):4989-4999.	Original Article	
60	Motoo Y, Tomita Y, Fujita H.	腫瘍内科	Prophylactic efficacy of ninjin'yoeito for oxaliplatin-induced cumulative peripheral neuropathy in patients with colorectal cancer receiving postoperative adjuvant chemotherapy: a randomized, open-label, phase 2 trial (HOPE-2)	Int J Clin Oncol. 2020 Jun;25(6):1123-1129.	Original Article	
61	Motoo Y, Yukawa K, Hisamura K, et al.	腫瘍内科	Physician perspectives on traditional, complementary, and integrative medicine and the national evidence-based Japanese integrative medicine information website: A mixed-method study	Integr Med Res. 2021 Mar;10(1):100454.	Original Article	
62	Kajinami K, Tsukamoto K, Koba S, et al.	循環器内科	Statin Intolerance Clinical Guide 2018	J Atheroscler Thromb. 2020 Apr 1;27(4):375-396.	Original Article	計7件

63	Ueno EI-Ichi, Fujibayashi K, Sawaguchi J, et al.	循環器内科	Monitoring the roles of prothrombin activation fragment 1 and 2 (F1+2) in patients with atrial fibrillation receiving rivaroxaban and apixaban	J Thromb Thrombolysis. 2020 Aug;50(2):371-379.	Original Article	
64	Nakamura M, Otsuka T, Hayashi R, et al.	消化器内科	Durvalumab-induced Immune-related Hepatitis in a Patient with Non-small Cell Lung Cancer	Intern Med. 2020 Nov 1;59(21):2711-2717.	Case report	
65	Sakurai N, Shibata T, Nakamura M, et al.	消化器内科	Influence of MIF polymorphisms on CpG island hyper-methylation of CDKN2A in the patients with ulcerative colitis	BMC Med Genet. 2020 Oct (オンライン)	Original Article	
66	Takano H, Shibata T, Nakamura M, et al.	消化器内科	Effect of DNMT3A polymorphisms on CpG island hypermethylation in gastric mucosa	BMC Med Genet. 2020 Oct (オンライン)	Original Article	
67	Nomura-Horita Tomoe, Hayashi Tasuku, Otsuka Toshimi, et al.	消化器内科	A Case of Severe Duodenitis in an Adult Patient with Hyper IgESyndrome	Japanese Journal of Gastroenterology and Hepatology. 2020 Jul (オンライン)	Case report	
68	Shimizu Yo, Tsukada Tsuyoshi, Sakata-Haga Hiromi, et al.	小児科	Exposure to Maternal Immune Activation Causes Congenital Unfolded Protein Response Defects and Increases the Susceptibility to Postnatal Inflammatory Stimulation in Offspring	Journal of Inflammation Research. 2021 Feb (オンライン)	Original Article	
69	Yasui Y, Shironomae T, Kuwahara T	小児外科	Target and Whirl Signs: Volvulus of Intussuscepted Colon in an Infant	Clin Gastroenterol Hepatol. 2020 May;18(5):A34.	Case report	計7件

70	Kohno M, Ogawa T, Kojima Y, et al.	小児外科	Pediatric congenital hydronephrosis (ureteropelvic junction obstruction): Medical management guide	Int J Urol. 2020 May;27(5):369-376.	Others	
71	Kido M, Nakamura K, Kuwahara T, et al.	小児外科	Arteriovenous malformation that caused prolapse of the colon and was treated surgically in an infant: a case report	Surg Case Rep. 2020 Apr 8;6(1):67.	Case report	
72	Kido M, Kuwahara T, Yasui Y, et al.	小児外科	Hypertrophic pyloric stenosis at birth: A case report	Pediatr Int. 2021 Feb;63(2):231-233.	Case report	
73	Ando M, Ichimori Y, Sakamoto S	小児心臓血管外科	Surgical repair in a patient with Berry syndrome	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Dec;68(12):1475-1478.	Case report	
74	Ando M, Ichimori Y, Sakamoto S	小児心臓血管外科	Vascular compression of the left bronchus in a patient with funnel chest	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Dec;68(12):1555-1557.	Case report	
75	Matsui M	脳神経内科	Is CSF neurofilament light chain measurement relevant for MS?	Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm. 2020 Sep (オンライン)	Others	
76	Tsuchiya T, Akita S, Oda M, et al.	心血管カテーテル治療科	Possible effect of direct oral anti-coagulant for preventing long stenting lesion from in-stent restenosis in femoropopliteal segment: Case report with angioscopy findings	SAGE Open Med Case Rep. 2020 Jul 23;8:2050313X20945535.	Case report	計7件

77	Furuichi K, Shimizu M, Yamanouchi M, et al.	腎臓内科	Clinicopathological features of fast eGFR decliners among patients with diabetic nephropathy	BMJ Open Diabetes Res Care. 2020 Jun (オンライン)	Original Article	
78	Yokoyama H, Yamamoto R, Imai E, et al.	腎臓内科	Better remission rates in elderly Japanese patients with primary membranous nephropathy in nationwide real-world practice: The Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study (JNSCS)	Clin Exp Nephrol. 2020 Oct;24(10):893-909.	Original Article	
79	Adachi H, Fujimoto K, Fujii A, et al.	腎臓内科	Long-term retrospective observation study to evaluate effects of adiponectin on skeletal muscle in renal transplant recipients	Sci Rep. 2020 Jul (オンライン)	Original Article	
80	Fujimoto K, Kagaya Y, Kumano S, et al.	腎臓内科	Retrospective single-arm cohort study of steroid-dependent minimal change nephrotic syndrome treated with very low-dose rituximab	Clin Nephrol. 2021 Jan;95(1):29-36.	Original Article	
81	Hayashi N, Beck LH Jr.	腎臓内科	Moore's law for membranous nephropathy	Kidney Int. 2020 Nov;98(5):1081-1084.	Letter	
82	Fujii A, Sunatani Y, Furuichi K, et al.	腎臓内科	DNA damage in human glomerular endothelial cells induces nodular glomerulosclerosis via an ATR and ANXA2 pathway	Sci Rep. 2020 Dec 17 (オンライン)	Original Article	
83	Fukui K, Kaneuji A, Wang X, et al.	整形外科	Computed Tomographic Osteolytic Analysis of a First-Generation Remelted Highly Cross-Linked Polyethylene in Total Hip Arthroplasty-At a Minimum of 15-Year Follow-Up	J Arthroplasty. 2020 May;35(5):1417-1423.	Original Article	計7件

84	Ueda S, Shimasaki M, Ichiseki T, et al.	整形外科	Mitochondrial Transcription Factor A added to Osteocytes in a Stressed Environment has a Cytoprotective Effect	Int J Med Sci. 2020 May (オンライン)	Original Article	
85	Yonezawa K, Kawaguchi M, Kaneuji A, et al.	整形外科	Evaluation of Antibacterial and Cytotoxic Properties of a Fluorinated Diamond-Like Carbon Coating for the Development of Antibacterial Medical Implants	Antibiotics (Basel). 2020 Aug 9;9(8):E495.	Original Article	
86	Onochi Y, Fukui K, Kaneuji A, et al.	整形外科	Dual mobility acetabular construct with freedom constrained liner for treatment of recurrent dislocations after total hip arthroplasty: A case report and literature review	Int J Surg Case Rep. 2020;75:94-99.	Case report	
87	Hirata H, Ueda S, Ichiseki T, et al.	整形外科	Taurine Inhibits Glucocorticoid-Induced Bone Mitochondrial Injury, Preventing Osteonecrosis in Rabbits and Cultured Osteocytes	Int J Mol Sci. 2020 Sep (オンライン)	Original Article	
88	Fukui K, Kaneuji A, Yonezawa K, et al.	整形外科	Catastrophic failure of cup revision hip arthroplasty due to undiagnosed Paget disease of bone: A case report	Int J Surg Case Rep. 2020;76:5-10.	Case report	
89	Takahashi E, Kaneuji A, Florissi I, et al.	整形外科	Satisfactory Outcomes in Patients Operated With Primary Total Hip Arthroplasty for Perthes-like Deformities: Results From a Surgical Technique Utilizing a Conical Stem, an Elevated Hip Center, and No Shortening Femoral Osteotomy	Arthroplast Today. 2020 Dec 25;7:29-36.	Original Article	
90	Ohi K, Shimada T, Kataoka Y, et al.	総合診療センター	Genetic correlations between subcortical brain volumes and psychiatric disorders	Br J Psychiatry. 2020 May;216(5):280-283.	Original Article	計7件

91	Takagaki Y, Lee SM, Dongqing Z, et al.	内分泌･代謝科	Endothelial autophagy deficiency induces IL6 -dependent endothelial mesenchymal transition and organ fibrosis	Autophagy. 2020 Oct;16(10):1905-1914.	Original Article	
92	Hirai T, Kitada M, Hayashi Y, et al.	内分泌･代謝科	Case report of superior mesenteric artery syndrome that developed in a lean type 2 diabetes patient and was associated with rapid body weight loss after sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor administration	J Diabetes Investig. 2020 Sep;11(5):1359-1362.	Case report	
93	Mizunuma Y, Kanasaki K, Nitta K, et al.	内分泌･代謝科	CD-1(db/db) mice: A novel type 2 diabetic mouse model with progressive kidney fibrosis	J Diabetes Investig. 2020 Nov;11(6):1470-1481.	Original Article	
94	Ogura Y, Kitada M, Xu J, et al.	内分泌･代謝科	CD38 inhibition by apigenin ameliorates mitochondrial oxidative stress through restoration of the intracellular NAD(+)/NADH ratio and Sirt3 activity in renal tubular cells in diabetic rats	Aging (Albany NY). 2020 Jun (オンライン)	Original Article	
95	Kitada M, Xu J, Ogura Y, et al.	内分泌･代謝科	Manganese Superoxide Dismutase Dysfunction and the Pathogenesis of Kidney Disease	Front Physiol. 2020 Jul 14;11:755.	Review	
96	Kitada M, Hirai T, Koya D.	内分泌･代謝科	Significance of SGLT2 inhibitors: lessons from renal clinical outcomes in patients with type 2 diabetes and basic researches	Diabetol Int. 2020 Jun 11;11(3):245-251.	Review	
97	Kitada M, Xu J, Ogura Y, et al.	内分泌･代謝科	Mechanism of Activation of Mechanistic Target of Rapamycin Complex 1 by Methionine	Front Cell Dev Biol. 2020 Aug 11;8:715.	Review	計7件

98	Kawakita E, Yang F, Kumagai A, et al.	内分泌･代謝科	Metformin Mitigates DPP-4 Inhibitor-Induced Breast Cancer Metastasis via Suppression of mTOR Signaling	Mol Cancer Res. 2021 Jan;19(1):61-73.	Original Article	
99	Kitada M, Ogura Y, Monno I, et al.	内分泌･代謝科	Supplementation with Red Wine Extract Increases Insulin Sensitivity and Peripheral Blood Mononuclear Sirt1 Expression in Nondiabetic Humans	Nutrients. 2020 Oct (オンライン)	Original Article	
100	Kitada M, Ogura Y, Monno I, et al.	内分泌･代謝科	Effect of Methionine Restriction on Aging: Its Relationship to Oxidative Stress	Biomedicines. 2021 Jan 29;9(2):130.	Review	
101	Kitada Munehiro	内分泌･代謝科	Efficacy of SGLT2 inhibitor in type 2 diabetic patients under dietary instructions: A pilot study	Clinical and Medical Investigations. 2020 Jul (オンライン)	Original Article	
102	Noguchi M, Inokuchi M, Noguchi M, et al.	乳腺･内分泌外科	Axillary reverse mapping in patients undergoing axillary dissection -a short review of the literature	Eur J Surg Oncol. 2020 Dec;46(12):2218-2220.	Review	
103	Noguchi M, Inokuchi M, Noguchi M, et al.	乳腺･内分泌外科	Axillary surgery for breast cancer: past, present, and future	Breast Cancer. 2021 Jan;28(1):9-15.	Review	
104	Morioka E, Noguchi M, Noguchi M, et al.	乳腺･内分泌外科	A case of recurrent malignant phyllodes tumor undergoing nipple-sparing mastectomy with immediate breast reconstruction	Surg Case Rep. 2020 Nov 25;6(1):297.	Case report	計7件

105	Iritani O, Okuno T, Hama D, et al.	認知症センター	Clusters of COVID-19 in long-term care hospitals and facilities in Japan from 16 January to 9 May 2020	Geriatr Gerontol Int. 2020 Jul;20(7):715-719.	Original Article	
106	Iritani O, Okuno T, Miwa T, et al.	認知症センター	Olfactory-cognitive index distinguishes involvement of frontal lobe shrinkage, as in sarcopenia from shrinkage of medial temporal areas, and global brain, as in Kihon Checklist frailty/dependence, in older adults with progression of normal cognition to Alzheimer's disease	Geriatr Gerontol Int. 2021 Mar;21(3):291-298.	Original Article	
107	Tamase A, Tachibana O, Nakada S, et al.	脳神経外科	A Case of Suprasellar Papillary Glioneuronal Tumor Mimicking Craniopharyngioma	NMC Case Rep J. 2020 Jun 24;7(3):85-88.	Case report	
108	Ohi K, Nishizawa D, Shimada T, et al.	神経科精神科	Polygenetic Risk Scores for Major Psychiatric Disorders Among Schizophrenia Patients, Their First-Degree Relatives, and Healthy Participants	Int J Neuropsychopharmacol. 2020 Apr 21;23(3):157-164.	Original Article	
109	Kataoka Y, Shimada T, Koide Y, et al.	神経科精神科	Differences in executive function among patients with schizophrenia, their unaffected first-degree relatives and healthy participants	Int J Neuropsychopharmacol. 2020 Jul 21;23(11):731-7.	Original Article	
110	Inoue S, Takata T, Nakazawa Y, et al.	泌尿器科	Potential of an Interorgan Network Mediated by Toxic Advanced Glycation End-Products in a Rat Model	Nutrients. 2020 Dec (オンライン)	Original Article	
111	Miyazawa K, Nakai D, Nakamura Y, et al.	泌尿器科	Effects of the xanthine oxidase inhibitor, febuxostat, on the expression of monocyte chemoattractant protein-1 and synchronous genes in MDCK cells treated with calcium oxalate monohydrate crystals	Int J Urol. 2021 Mar;28(3):339-345.	Original Article	計7件

112	Futatsuya T, Anzawa K, Mochizuki T, et al.	皮膚科	Disseminated cutaneous cryptococcosis in an immunocompetent elderly long-term pigeon fancier	J Dermatol. 2020 May;47(5):551-553.	Case report	
113	Futatsuya T, Ushigami T, Nomura F, et al.	皮膚科	Scalp microbiota in members of a Japanese high school judo team including Trichophyton tonsurans carriers	J Dermatol. 2020 Sep;47(9):1020-1026.	Original Article	
114	Mochizuki T, Tsuboi R, Iozumi K, et al.	皮膚科	Guidelines for the management of dermatomycosis (2019)	J Dermatol. 2020 Dec;47(12):1343-1373.	Others	
115	Terauchi T, Nakada S, Takenaka M, et al.	病院病理部	Intracytoplasmic Lumen in Urine Cytology Predicts Worse Prognosis in Non-Muscle-Invasive Bladder Cancers	Acta Cytol. 2020;64(4):360-367.	Original Article	
116	Mizuguchi S, Shioya A, Sasagawa T, et al.	病院病理部	Case report of large malignant pericardial effusion in a post-surgical setting of endometrial mixed carcinoma: A description of unique cytological, histological, and immunohistochemical findings	SAGE Open Med Case Rep. 2020 Jun 10;8:2050313X20930919.	Case report	
117	Shioya A, Kadoguchi R, Guo X, et al.	病理診断科	A unique surgical case of giant invasive intracystic carcinoma of the male breast focusing on cytological findings	SAGE Open Med Case Rep. 2020 Jun 7;8:2050313X20932005.	Case report	
118	Mizutani K, Shioya A, Hirose Y, et al.	病理診断科	Serious takotsubo cardiomyopathy: an autopsy case presenting severe irreversible myocardial damage after frequent episodes of recurrence	Diagn Pathol. 2020 Jul (オンライン)	Case report	計7件

119	Shioya A, Kurose N, Mizutani K, et al.	病理診断科	Early-stage multi-differentiated gastric carcinosarcoma and post-resection local recurrence: a case report	Diagn Pathol. 2020 Sep (オンライン)	Case report
120	Guo X, Watanabe J, Nakatani H, et al.	病理診断科	Mucinous myoepithelioma: A report of a new variant	SAGE Open Med Case Rep. 2020 Oct 8;8:2050313X20940567.	Case report
121	Mizutani K, Kumagai M, Aikawa A, et al.	病理診断科	Nasal spindle cell tumor with rhabdomyoblastic features: A rare and diagnostically difficult case	SAGE Open Med Case Rep. 2020 Oct 8;8:2050313X20964090.	Case report
122	Matoba M, Tsuchiya H, Kondo T, et al.	放射線治療科	Stereotactic body radiotherapy delivered with IMRT for oligometastatic regional lymph node metastases in hepatocellular carcinoma: a single-institutional study	J Radiat Res. 2020 Sep 8;61(5):776-783.	Original Article
123	Shimizu Y, Taga M, Takahashi Y, et al.	薬剤部	Study of the More Suitable Drugs and Dosage Forms for Administration to Newborn Infants via Feeding Tube Using the Collection Rate as an Indicator	Chem Pharm Bull (Tokyo). 2020;68(8):802-805.	Others

合計123件

(注) 1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）; 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例：　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　/　Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名･ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計　件

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	有・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・　手順書の主な内容 臨床における倫理方針、職業倫理要綱 患者の権利 臨床倫理の研修 臨床倫理問題 高難度新規医療技術の導入 未承認新規医薬品等を用いた医療	
③　倫理審査委員会の開催状況	年　4　回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
　　2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・　規定の主な内容 産学官連携活動等における利益相反に関する状況に適正に対処することにより、本学及び教職員等の社会的信用及び名誉を保持することを目的とする。 利益相反マネジメント委員会では以下の事項を審議する。 （１）利益相反マネジメントポリシー及び規程等に関する事項 （２）利益相反問題の適切な対処に関する施策の検討及び実施 （３）第１１条の規定による自己申告書の内容の検討及び調査 （４）利益相反マネジメントの実施のために必要な状況調査 （５）前号の調査で得られた情報の評価 （６）その他利益相反に関する事項	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年　4　回

(注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 14 回
・研修の主な内容 治験・臨床研究の倫理に関する教育研修会『これから、臨床研究を実施するために』令和2年10月20日開催 臨床研究セミナー（名古屋大学医学部附属病院（中部円環コンソーシアム）からのライブ配信）を年13回開催（1～2回／月） 研究者は、薬機法、GCP、臨床研究法等の法令及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の各研究倫理指針を遵守しなければならない。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」では、研究者は研究に先立ち、研究実施に必要な研究倫理の講習・研修を適宜かつ継続的に受けなければならないとされている。そこで、当センターでは全教職員を対象に上記講習会を開催した。	

(注）前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

当院の医科後期臨床研修（専門研修）では、１８領域の専門研修プログラムがあり、初期臨床研修修了後にはスムーズな後期研修を行う事が出来る。また、初期臨床研修医２年次より大学院に進学することが出来、最短５年の期間で初期臨床研修の修了と大学院医学研究科の修了（学位取得）が可能である。

２年間の初期臨床研修で修得した知識と技術を基礎に、後期臨床研修医は、各診療科での専門医・指導医の資格を有する教授、准教授、講師などの指導体制のもと、さらに高度で専門的な医療を身につけることを目指している。

具体的には、診療科毎に日本専門医機構の承認を受けた研修プログラムにて臨床研修を行ない、各領域（学会）が定めた専門医の取得を目指すものである。そのため、当院での後期臨床研修の特徴は１９の基本領域において関連する診療科が全て整っており、全ての領域の選択が可能で、専門科間、職種間のカンファレンスが日常的に行われていることである。

なお、各領域における①後期臨床研修プログラムの目的、②後期臨床研修プログラム修了後のコース（サブスペシアルテイコース）、③時間割、研修内容と到達目標、④取得できる専門医（必要な期間）資格とその取得にかかわる概要、⑤週間スケジュール等の詳細については、金沢医科大学病院臨床研修センターのホームページ（後期臨床研修案内）に公表しており、各領域学会からの案内と同時に確認することが出来る。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	45　人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
梶波　康二	循環器内科	診療科長	37　年	
土谷　武嗣	心血管カテーテル治療科	診療科長	33　年	
高野　　環	心臓血管外科	診療科長	30　年	
高野　環（事務取扱）	末梢血管外科	診療科長	30　年	
安藤　誠	小児心臓血管外科	診療科長	30　年	
水野　史朗	呼吸器内科	診療科長	26　年	
浦本　秀隆	呼吸器外科	診療科長	26　年	
伊藤　透（事務取扱）	消化器内科	診療科長	39　年	
土島　　睦	肝胆膵内科	診療科長	35　年	
北方　秀一	消化器内視鏡科	診療科長	22　年	
高村　博之	一般・消化器外科	診療科長	31　年	
野口　昌邦	乳腺・内分泌外科	診療科長	51　年	
古市　賢吾	腎臓内科	診療科長	28　年	
宮澤　克人	泌尿器科	診療科長	37　年	
伊藤　透（事務取扱）	内分泌・代謝科	診療科長	39　年	
正木　康史	血液・リウマチ膠原病科	診療科長	31　年	
朝比奈正人	神経内科	診療科長	34　年	
林　　康彦	脳神経外科	診療科長	30　年	

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
大黒　正志	高齢医学科	診療科長	25　年	
安本　和生	腫瘍内科	診療科長	35　年	
犀川　　太	小児科	診療科長	33　年	
岡島　英明	小児外科	診療科長	31　年	
川﨑　康弘	神経科精神科	診療科長	36　年	
川﨑　康弘	心身医学科	診療科長	36　年	
南　　哲弥	放射線科	診療科長	24　年	
的場　宗孝	放射線治療科	診療科長	31　年	
川原　範夫	整形外科	診療科長	38　年	
島田　賢一	形成外科	診療科長	27　年	
佐々木　洋	眼　科	診療科長	34　年	
三輪　高喜	耳鼻咽喉科	診療科長	38　年	
辻　　裕之	頭頸部・甲状腺外科	診療科長	40　年	
清水　　晶	皮膚科	診療科長	25　年	
笹川　寿之	産科婦人科	診療科長	38　年	
高橋　完	麻酔科	診療科長	29　年	
松下　功	リハビリテーション医学科	診療科長	35　年	
和藤　幸弘	救命救急科	診療科長	38　年	
山田　壮亮	病理診断科	診療科長	20　年	
飯沼　由嗣	感染症科	診療科長	35　年	
出村　昇	歯科口腔科	診療科長	37　年	
岩井　邦充	健康管理センター	センター長	39　年	
中橋　毅	総合診療センター	センター長	31　年	

(注) 1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ①医師に対する緩和ケア研修会 ②ELNEC-Jコアカリキュラム看護師研修 ③がん薬物療法における薬薬連携の推進 ④石川県専門看護実践研修（摂食嚥下障害看護） ・研修の期間・実施回数 ①令和2年10月18日　年１回 ②令和2年9月17日～18日　年１回 ③令和2年9月28日、12月3日 ④令和2年10月5日～11月5日（全6日） ・研修の参加人数 ①30名 ②46名 ③72名、33名 ④39名

(注) 1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1．計画　　(2)．現状
管理責任者氏名	病院長　伊藤透
管理担当者氏名	医療情報担当副院長　大黒正志、医療情報部長　島崎猛夫、 統合情報管理部長　大家英治、病院事務部副部長　中村光宏 医療安全担当副部長　岡山均、医事課診療情報担当課長　山野清一、 病院管理課（人事担当）課長　原章文

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課（管理担当）	【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号（7桁）を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。 診療録の利用に当たり、管理場所以外へ診療録を移動すること、また利用者間で診療録をまた貸出することは「診療録貸出規定」にて禁止事項となっている。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	電子カルテ、看護部	
		看護記録	電子カルテ、看護部	
		検査所見記録	電子カルテ	
		エックス線写真	中央放射線部	
		紹介状	電子カルテ	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課（人事担当）	各保管場所において、各管理方法により保管。
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	臨床試験治験センター	
		閲覧実績	病院管理課（管理担当）	
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携事務課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院管理課（管理担当） 薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全課	本学における文章保存規程に定められた期間、施錠できる書庫にて保管。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全課	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療安全課	本学における文章保存規程に定められた期間、施錠できる書庫にて保管。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ＭＥ部、医療安全課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ＭＥ部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ＭＥ部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ＭＥ部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全課	本学における文章保存規程に定められた期間、施錠できる書庫にて保管。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全課	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	情報管理課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	情報管理課	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全課	
		監査委員会の設置状況	医療安全課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全課	
		職員研修の実施状況	医療安全課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全課	
		管理者が有する権限に関する状況	病院管理課（管理担当）	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医療安全課	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	１．計画　　[2]．現状	
閲　覧　責　任　者　氏　名	医療情報担当副院長　大黒 正志	
閲　覧　担　当　者　氏　名	医事課診療情報担当課長　山野清一（診療記録）	
閲覧の求めに応じる場所	医事課診療情報担当（病歴）事務室内	

・　閲覧の手続の概要
電子カルテシステム稼働（平成１２年）以前の紙の診療録の貸出しについては、貸出日の前日までに貸出依頼票を医事課診療情報担当事務に提出し、医療情報部長の許可を受けて実施する。
貸出期間は２日以内ですが、死亡患者については７日以内となっており、当該患者の診療のため診療録が必要となった場合を除き診療録の閲覧場所は医事課診療情報担当（病歴）事務室内で行なう。
診療録の利用に当たり管理場所以外へ診療録を移動すること、また利用者間で診療録を転貸することは「診療録貸出規程」にて禁止事項となっている。

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　　件
閲覧者別	医　　師	延　29　件
	歯　科　医　師	延　　件
	国	延　　件
	地方公共団体	延　　件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無

・　指針の主な内容：
医療事故防止に関する安全管理体制の指針（以下「指針」という。）は医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの３部構成をとっている。
指針は、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、患者暴力行為への対応、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。

②　医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況

・　設置の有無（　有・無　）

・　開催状況：年　12　回

・　活動の主な内容：
＊医療安全対策小委員会：年１２回／月１回開催（第３水曜日）
医療安全対策小委員会は医療安全管理室長を委員長に配し、医療安全管理者、内科系・外科系・小児科等の医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員で構成され、医療安全管理者が決めたテーマや各部門に共通するようなインシデント事例を抽出して事例検討を行う。
小委員会では、インシデントに至る状況、要因、影響等について、徹底的に分析・検討し、改善策や再発防止対策を洗い出す。また、その結果を医療安全対策委員会に小委員会からの事例報告として報告・提案・注意喚起するとともに、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。

＊医療安全対策委員会：年１２回／月１回開催（第４火曜日）
医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門セーフティマネージャー（病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職）で構成されている。インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対　策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果及び改善策、医療問題検討委員会で検討された医療事故に関してそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。さらに、診療科、病棟、薬剤部、ＭＥ部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、職種の立場を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を定期的に行っており、その内容について毎回２～３グループの代表者が報告する。他に指針・マニュアルの改正、医療安全院内ラウンド、全体職員・セーフティマネージャー研修会、医療安全アンケート、その他医療安全に係る事項について定める。
委員会の議事録及び資料は、各委員及び全セーフティマネージャーに配付し所属職員全員に周知するよう回覧を行い、読んだ者はサインするようにしている。他に、電子カルテ上とイントラネット「病院職員のページ」にも委員会の議事録を掲載している。

③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年　2　回
・　研修の内容（すべて）： 第１回研修会 「診療用放射線の安全管理について」 「医薬品の安全管理について」 「インシデントレポート報告から感じたこと」 第２回研修会 「倫理的な安全、安全のための倫理」	
④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機関内における事故報告等の整備　（　有・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： 医療安全管理者が、医療事故報告書とインシデントレポートの報告内容を確認するため、現場状況調査を行い事象の分析を通して問題点を把握する。また、各部署より医療安全に関する業務改善計画を年3回（①初期計画（5月）、②中間報告（10月）、③最終評価（3月））に提出してもらい、その都度評価と改善策の検討を行っている。さらに、院内ラウンドとセーフティマネージャーカンファレンスを実施し、各部署から提出された業務改善計画の実施状況の確認を行っている。	

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1．院内感染に対策に関する基本的な考え方 2．院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項 3．院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針 4．感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5．院内感染発生時の対応に関する基本方針 6．患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7．その他院内感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： 1．院内感染事例への対応に関する事項 2．ｻｰﾍﾞｲﾗﾝｽﾃﾞｰﾀに基づく、院内感染症発生状況の把握と対策に関する事項 3．抗菌薬適正使用に関する事項 4．院内感染対策に係る緊急事態（重大な感染事例発生等）への対応に関する事項 5．院内感染防止対策に係る教育啓発に関する事項 6．感染対策ﾏﾆｭｱﾙの改訂に関する事項 7．その他、院内感染防止対策に関する協議検討報告事項	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 31 回
・ 研修の内容（すべて）： 【全職員対象】：２回 1）「当院における院内感染対策の課題と対応策（新型コロナウイルス対策も含めて）」、「抗菌薬適正使用の推進について」 開催日時：令和2年4月20日（月） 講師：飯沼由嗣 感染制御室室長 ICD / 中川佳子 感染制御室専従看護師 ICN/ 多賀允俊 感染制御室専任薬剤師 ICPS 2）「今冬の院内感染対策について」、「当院における抗菌薬適正使用の推進について」 開催日時：令和2年12月14日（月） 講師：飯沼由嗣 感染制御室室長 ICD / 野田洋子 感染制御室専従看護師 ICN/ 多賀允俊 感染制御室専任薬剤師 ICPS 【新採用者対象】：４回 1）全員「新入職員ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ・院内感染対策について 開催日：令和2年4月2日 2）ｺﾒﾃﾞｨｶﾙ対象・院内感染対策、手洗い講習 開催日：令和2年4月2日 3）研修医対象・感染対策組織概要、標準予防策と感染経路別予防策 開催日：令和2年4月14日 4）新人看護職員研修・感染管理概論、針刺し切創・粘膜曝露、標準予防策、感染経路予防策、PPE脱着訓練 開催日：令和2年4月8日	

【その他】：２５回
1）清掃委託業者「院内清掃ポイント」（レジメとDVDにより適時視聴　令和2年12月開始）
2）血管内留置ｶﾃｰﾃﾙ関連血流感染防止対策のため、現場指導の各病棟リンク委員に対し、管理方法の実際を各病棟でチェックリストに基づき確認し、指導した。令和2年6月～20回
3）新型コロナウイルス感染症対応の防護具の着脱訓練　4回
※その他、各部署向け教育研修等は必要時、その都度行っている

④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

・　病院における発生状況の報告等の整備　　（ 有・無 ）
・　その他の改善のための方策の主な内容：
1．感染症事例の情報の感染制御室への集約と、迅速な現場への指示および実施状況の確認。
2．全病棟対象のICTラウンドの実施による感染対策遵守状況の確認と改善のための助言。
3．感染症サーベイランスの導入と関係部署への定期的なフィードバック。
4．耐性菌サーベイランスの実施によるアウトブレイクの早期発見、感染症患者に対する感染対策の指示。
5．すべての職業感染事例の対応と予防対策への助言、針刺し防止器材の積極的な導入と評価。
6．病院職員を対象とした、ワクチン接種、抗体価測定。
7．月例の感染対策上問題となった事例の報告と全部署への周知徹底。
8．全職員対象の感染対策講演会の他、職種別、部署別など様々な教育啓発活動の実践。
9．新型コロナの流行に伴い、電動ファン付き呼吸用保護具を導入し着脱法などの教育支援、希望職員を対象にフルPPE着脱トレーニングを回数を分けて開催

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年　2　回
・　研修の主な内容： ①新入職員オリエンテーション 「医薬品の安全管理について」 ②安全管理体制確保のための職員研修会 「医薬品の安全管理について」	
③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・　手順書の作成　（　有・無　） ・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品の採用・購入に関する事項 医薬品の管理に関する事項 患者の持参薬歴情報の収集方法 処方箋の記載方法 調剤方法及び監査方法 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 他施設（病院・薬局等）との連携に関する事項	
④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医薬品に係る情報の収集の整備　（　有・無　） ・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 無水エタノール注「フソー」の経皮的注入による血管塞栓術（適応外） ポリドカスクレロール注3%注による下肢静脈瘤硬化療法（適応外） ・　その他の改善のための方策の主な内容： ＰＭＤＡのＤＳＵ（医薬品安全対策情報）等各種サイトからの関連情報の収集：定期的な院内周知と周知状況の確認 セーフティーマネージャーカンファレンス、医療安全管理室カンファレンス、医療安全対策委員会等でのインシデント情報の共有とその対策の検討	

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年　87　回
・　研修の主な内容： 機器研修はH19.3.30医政局通知（有効性、安全性、使用方法、保守,不具合時の対応、法令上の遵守事項。2回／年）に従い行っている。人工呼吸器等の主要ME機器については医療安全部、看護部、ME部（当院の機器管理部門）等が協力,連携し機器研修を実施している。（令和2年度の機器毎の研修等の実施回数 87回、参加延べ人数約 739名）	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　（　有・無　） ・　機器ごとの保守点検の主な内容： 人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、保育器、高エネルギー放射線装置及びその他主要ME機器の年間点検計画を策定し機器マニュアル、メーカー指示（点検内容、頻度）に従って各機器のチェックシートを作製し臨床工学技士が通常点検を実施している。また人工呼吸器は通常点検に加えてメーカー推奨の使用時間毎にメーカー定期点検を実施している	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　（　有・無　） ・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 機器メーカー、臨床工学技士会、機器等納入業者及び医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページ、またはPMDAからのメール配信サービスより各種関連情報を入手し関連部門へメール、通達回覧し、必要時には担当ME技士及びメーカーSEにより直接、当該部門で改善指導を行っている。 ・　その他の改善のための方策の主な内容： 全体に関わる事案については医療安全委員会議（各部門リスクマネージャ全員出席）で報告、説明、注意喚起等を実施している。また機器管理部門（当院ではＭＥ部）では定期的に部内で機器保守管理検討会を実施し医療機器の効果的な保守点検管理に努めている。ME機器はME部で中央管理とし、機種を統一している	

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 病院長が医療安全管理責任者となり直轄機関として医療安全部を設置、医療安全部長、医療安全管理委員会委員長、医療安全対策委員会委員長を兼務し、医療安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理者を統括し緊密な連携のもと、組織横断的に安全管理の推進を図っている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 6 名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ①医薬品の安全使用に関わる手順書の作成・改訂 ②従業者に対する医薬品の安全使用のための研修会の実施 ③医薬品の業務手順書に基づく業務実施内容の確認と改善策の実施 ④医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集 ⑤その他の医薬品の安全確保の目的と改善策の実施 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 ①医薬品安全使用のための業務に資する情報の整理、周知及び当該周知状況の確認 ②未承認等の医薬品の使用状況の把握のための体系的な仕組みの構築、運営 ③未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討状況の確認、必要な指導、結果の共有 ④上記措置を適切に実施するための担当者の定め ・ 担当者の指名の有無（有・無） ・ 担当者の所属・職種： （所属：医療安全部 ，職種 薬剤師 ）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ 有・無 ） ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 医療行為を行なうに当たり患者等に対して説明書による説明と同意を取得すること定めており、患者氏名、患者番号、説明を行った日付、診断名、病状の説明、診療行為の目的と内容、行為に伴う副作用・危険性及び予後、患者の確認及び同意の記載、同意した日付、患者本人並びに代理人の署名、同席した医療者名等について、診療情報管理士が記載漏れや記載の誤りを確認して該当の診療科及び部署に注意を促している。	

⑤　診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無

・　診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：
診療録の記載内容に関する質的監査は、入院診療計画書、入院経過要約、毎日のプログレス記載、フォローアップの記載、治療内容の記載、周術期記録、手術及び麻酔、輸血に関する説明及び同意書等の有無などについて診療情報管理士が評価（量的監査）する。また、主治医以外の医師により・傷病の特徴、・傷病の問題点、・一般的な傷病との違い、・今後の治療方針並びに考察、・経過に関する評価及び問題点等について診療内容との整合性や適正に記載されているかなどを評価（質的監査）します。監査の結果は、診療科にフィードバックして注意を促している。

⑥　医療安全管理部門の設置状況	有・無

・　所属職員：専従（11）名、専任（　）名、兼任（7）名
うち医師：専従（1）名、専任（　）名、兼任（3）名
うち薬剤師：専従（1）名、専任（　）名、兼任（1）名
うち看護師：専従（2）名、専任（　）名、兼任（1）名
（注）報告書を提出する年度の 10 月１日現在の員数を記入すること

・　活動の主な内容：
１．各部門の医療安全対策の実施状況の評価を行い、業務改善計画書を作成する。計画書に基づく実施状況及び評価結果を記録し保管を行う。
２．院内医療安全の推進に係る医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会、医療問題検討委員会、医療事故調査委員会等で用いられる資料 及び議事録の作成保存、庶務に関すること。
３．インシデント及びアクシデントレポート等に関する集計・分析・調査を行い、医療事故防止のための改善策の策定・実施及び周知を行う。
４．医療事故発生時の対応及び原因究明、診療情報の記載が適切に実施されていることを確認すると共に指導を行う。
５．院内ラウンドを実施して、医療安全に関する周知状況の調査及び部署の改善事項について必要な指導を行う。
６．医療安全管理体制を確保するための職員研修の企画・運営を行い、実績を記録する。
また、職員の医療安全向上状況に関する意識の認識についてモニタリングを平時から行う。
７．医療安全対策委員会の構成員及び必要に応じて各部門の医療安全管理の担当者等を参加させて医療安全対策の取組に係る評価等を行うカンファレンスを週１回程度開催する。
８．医療安全管理部門の構成員による医療安全対策推進に関するカンファレンスを週１回程度開催する。
９．医療安全相談に関し、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱いを記録する。
10．医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例について、職員へ周知を行う。
11．その他、医療安全対策の推進に係る指導と連絡調整等に関すること。

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・　前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3 件）、及び許可件数（3 件）

・　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　）

・　高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　）

・　活動の主な内容：
　１．申請内容を確認し評価委員会に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否及び実施を認める条件等について意見を求める。
　２．評価委員会の意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請者に対しその結果を通知する。
　３．提供された高難度新規医療技術を定期的に確認し、患者が死亡又は重篤な合併症を発症した場合に診療録等の記載内容を確認する。
　４．高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況を確認し管理者に報告する。
　５．関係する資料、記録を５年間保存する。

・　規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有・無　）

・　高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（　有・無　）

⑧　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・　前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1 件）、及び許可件数（1 件）

・　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　）

・　未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　）

・　活動の主な内容：
　１．申請内容を確認し評価委員会に対して当該未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否及び実施を認める条件等について意見を求める。
　２．評価委員会の意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等について決定し、申請者に対しその結果を通知する。
　３．提供された未承認新規医薬品等を用いた医療を定期的に確認し、患者が死亡又は重篤な合併症を発症した場合に診療録等の記載内容を確認する。
　４．未承認新規医薬品等を用いた医療が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況を確認し管理者に報告する。
　５．関係する資料、記録を５年間保存する。

・　規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有・無　）

・　未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無　（ 有・無 ）

⑨　入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・　入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年　326　件

・　上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年　79　件

・　上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
１．本学病院において医療安全に関する重大な問題その他、委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析。
２．分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善策の立案及び実施並びに病院職員への周知。
３．改善策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し。
４．入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理室への報告の実施状況の確認及び確認結果の病院長への報告。
５．入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして、病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況について医療安全管理室への報告状況に関する確認及び確認結果を病院長へ報告。
６．安全の確保を目的とした改善策の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員への研修及び指導。
７．その他医療安全管理方針の策定及び推進に関すること。

⑩　他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・　他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：関西医科大学附属病院　）・無）

・　他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：関西医科大学附属病院　）・無）

・　技術的助言の実施状況
新型コロナウイルス感染症影響下での医療安全研修の実施について対策を講じるよう助言よる職員研修会を計画している。

⑪　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・　体制の確保状況
患者相談支援窓口を設置し窓口の一本化を図り、患者や家族からの医療安全を含めた様々な相談に対応している。
窓口の設置場所、相談担当者等については、ポスターを院内に掲示している他、入院案内パンフレット、病院ホームページにも掲載し周知を行っている。
月１回、各担当者が集まり合同カンファレンスを開催し、電子カルテ内に「サポート記録シート」を作成し、情報の共有を図っている。
相談内容については、個人情報保護の方針に基づいた取扱いを行っている。

⑫　職員研修の実施状況
・　研修の実施状況 高難度新規医療技術の定義及び業務手順並びに事前申請の必要性について研修会で説明、周知した。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬　管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 管理者、医療安全管理責任者 ※2020 年度日本医療機能評価機構　特定機能病院管理者研修会受講 医薬品安全管理責任者 ※2020 年度日本医療機能評価機構　特定機能病院管理者研修会受講 医療機器安全管理責任者 ※2020 年度日本医療機能評価機構　特定機能病院管理者研修会受講

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
・　第三者による評価の受審状況 公益財団法人日本医療機能評価機構による、一般病院 2（3rdG：Ver.1.1）評価認定中。 （認定期間：平成 29 年 1 月 22 日～令和 4 年 1 月 22 日） 令和 4 年 6 月　一般病院 3 受審予定 ・　評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況 病院ホームページ上において公表している。 改善要望事項：該当項目なし ・　評価を踏まえ講じた措置 医療機能の質の維持向上のため、病院機能評価委員会を設置し、病院職員からサーベイヤーを選出し、定期的に院内サーベイを実施している。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第７条の２の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・基準の主な内容 病院長候補者となることができる者は、次の各号に掲げる全ての要件を満たす者とする。 （１）医師免許を有していること。 （２）医療安全管理について十分な経験があり、必要な知識と能力を有していること。 （３）高度医療を司る特定機能病院の管理運営において、十分な経験があり、必要な知識と能力を有していること。 （４）本学における建学の精神に基づき、学部学生の臨床教育の推進に十分な理解と熱意を持ち、医療人の育成に積極的に取り組む姿勢があること。 （５）地域医療への貢献を果たす使命を達成するための意思と指導力を有していること。 ・基準に係る内部規程の公表の有無（　有・無　） ・公表の方法 病院ホームページにて公表している。

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無
・選考を実施した場合、委員会の設置の有無（　有・無　） ・選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（　有・無　） ・選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（　有・無　） ・公表の方法	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無

・合議体の主要な審議内容
病院の重要事項である管理運営方針、中期計画、予算等を審議し、本学病院の設置目的、医療提供の理念及び基本方針に基づく管理運営を的確かつ円滑に行う。

・審議の概要の従業者への周知状況
病院運営会議で承認された事項は、病院部科長会並びに病院連絡会において報告され、職員への周知を行っている。

・合議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・公表の方法
病院ホームページ上で公表している。

・外部有識者からの意見聴取の有無（　有・無　）

合議体の委員名簿

氏名	委員長 （○を付す）	職種	役職
伊藤　　透	○	医師	病院長
横山　　仁		医師	副院長
辻　　裕之		医師	副院長
大黒　正志		医師	副院長
中村真寿美		看護師	副院長（看護部長）
石田　豊司		事務職	副院長（病院事務長）
高村　博之		医師	病院長補佐
島崎　猛夫		医師	医療情報部長
中川　　透		臨床工学技士	医療技術部長
政氏　藤玄		薬剤師	薬剤部長
中村　光宏		事務職	病院事務部副部長
岡山　　均		事務職	医療安全担当副部長
木村　洋輔		事務職	病院管理課長
西島　大輔		事務職	医事課長
北山　道彦		医師	オブザーバー （理事）
堀　　有行		医師	オブザーバー （医学教育ｾﾝﾀｰ長）

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限
・管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・公表の方法 病院ホームページにて公表している。 ・規程の主な内容 管理者の有する病院の管理運営上必要な権限及び職務について定めている。 ・管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割 ※副院長（金沢医科大学病院副院長任用規程） 病院長を補佐し、また病院長に事故あるときはその職務を代行する。 診療担当、ドック・危機管理担当、中央手術部担当、医療連携・医事・医療安全担当、総務・臨床教育担当、医療情報担当、渉外業務担当、看護担当、病院事務担当と各副院長に職務の分担を行っている ※病院長補佐（金沢医科大学病院病院長補佐任用規程） 病院長が指示した事項について調査・企画・立案するとともに、その実施に関して病院長の職務を補佐する。一般病院業務について補佐している ・病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況 特定機能病院管理者研修会、認定看護管理者教育課程 サードレベル、事務職員管理者研修

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無

・　監査委員会の開催状況：年２回

・　活動の主な内容：
金沢医科大学病院における医療安全管理の取組状況について医療法施行規則第９条の２３第１項第９号の規定に基づき監査を行い、必要な是正措置を含む助言及び指導等を行う。

・　監査委員会の業務実施結果の公表の有無（　有・無　）

・　委員名簿の公表の有無（　有・無　）

・　委員の選定理由の公表の有無（　有・無　）

・　監査委員会に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・　公表の方法：
金沢医科大学病院ホームページに掲載している。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
秋野　裕信	福井大学医学部附属病院医療安全管理部　部長	○	医療安全業務従事者	有・無	1
鵜澤　剛	金沢大学大学院法務研究科准教授		法律学業務従事者	有・無	1
市川　政枝	元金沢星稜大学人間科学部非常勤講師		医療を受ける者	有・無	2

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1．医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2．医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3．その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 学校法人金沢医科大学監事監査規程において監事による定期的な監査を行っている ・専門部署の設置の有無（ 有・無 ） ・内部規程の整備の有無（ 有・無 ） ・内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・公表の方法 学校法人金沢医科大学監事監査規程を病院ホームページで公開予定である

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況
・病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会において、病院の管理・運営状況について報告し、必要に応じて指摘・改正指示が行われる。 ・会議体の実施状況（　年　6　回　） ・会議体への管理者の参画の有無および回数（　有・無　）（　年　6　回　） ・会議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　） ・公表の方法 学校法人金沢医科大学寄付行為について大学ホームページにて公開している
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：
会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 （〇を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・　情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（　有・無　） ・　通報件数（年３件） ・　窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（　有・無　） ・　窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（　有・無　） ・　周知の方法 全部署に配置してある「安全管理体制の指針・マニュアル」に制度について記載している。 また、全ての職員が携帯している「医療安全ハンドブック」に概要を記載し周知している。 さらに、電子カルテに報告用紙を掲載し情報提供しやすい環境を整備している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・　情報発信の方法、内容等の概要 病院の理念、基本方針や自院の役割、診療機能等を病院広報誌やホームページで情報発信している	

2　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 臓器、疾患毎に複数診療科連携による診療センターの設置 電子カルテによる診療科の他科外来への対診依頼体制の整備	

(様式第 8-3)

令和　3 年 10 月　4 日

厚生労働大臣　　殿

開設者名　学校法人　金沢医科大学
理事長　髙島　茂樹

金沢医科大学病院の第三者による評価を受審する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1　受審予定である第三者評価

①　公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価のうち、一般病院３による評価 2　Joint Commission Internationalが実施する、ＪＣＩ認証による評価 3　ISO 規格に基づく、ISO 9001 認証による評価

（注）上記のいずれかを選択し、番号に〇を付けること。

2　第三者評価を受けるための予定措置

現在、一般病院2（3rdG：Ver.1.1）評価認定中、改善要望事項：該当項目なし （認定期間：平成29年1月22日～令和4年1月22日） 令和4年6月　一般病院3受審予定 （新型コロナウイルス感染症に係る特例措置を受け、1年間の受審延期）